



神青協

皇紀2682年 神青協通信／第145号 (令和4年7月31日)



◆目次

目次・神宮の諸行事	一
会長挨拶	二
神宮大麻全国頒布百五十周年特集記事	三〇六
第七十三回定例総会	七〇八
令和四年度活動方針並びに事業計画	九〇一
令和四年度 一般会計 歳入歳出予算書	一二
令和三年度賛助金御礼	一三
令和三年度定例表彰一覧	一四〇
令和三年度中央研修会報告	二〇一
沖縄本土復帰五十周年記念 国土平安祈願祭	二二
沖縄本土復帰五十周年記念日 国土平安祈願祭 全国一斉奉仕	二二
「デジタル社会における神社の在り方」を学ぶウェブ研修会	二四
全日本仏教青年会共同事業	二五
第四回インスタグラム神社フォトコンテスト	二六
「神社とわたしの思い出」	二七
令和四年度 神道青年全国協議会夏期セミナー 開催要綱	三二
協賛広告／編集後記	三三
財団広告	三五



◆神宮の諸行事

七月 八日	度会大國玉比売神社 仮殿御遷座 ※豊受大神宮摂社
八月 四日	風日祈祭 抜穂祭
九月 二日	国津御祖神社本殿御遷座 ※皇大神宮摂社
九月 八日	加努弥神社本殿御遷座 ※皇大神宮末社
九月 十五日	度会大國玉比売神社 本殿御遷座 ※豊受大神宮摂社
九月 十七日	神宮大麻頒布始祭
九月 二十二日	秋季神樂祭（二十五日） 秋季皇霊祭遙拝
九月 三十日	大祓 御酒殿祭
十月 一日	御塩殿祭
十月 五日	神御衣祭
十月 十四日	神嘗祭（二十五日） 大祓
十月 十五日	田乃家神社仮殿御遷座 ※皇大神宮摂社
十一月 十日	新嘗祭（二十九日） 大祓
十一月 二十三日	御酒殿祭
十二月 一日	坂手国生神社新殿御遷座 ※皇大神宮摂社
十二月 八日	月次祭（二十五日） 大祓
十二月 十五日	大祓
十二月 下旬	大祓
十二月 三十一日	大祓

会長挨拶

神道青年全国協議会会長

小林慶直

先づ以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉ると共に、神宮におかれましても諸祭滞り無く斎行されてをられますこと、お慶び申し上げます。

秋篠宮皇嗣殿下におかせられましたは、延期されておました立皇嗣の札の奉告参拝が神宮を始め神武天皇陵など七つの御陵に於いて悉無く終へられましたこと、慶賀に存じ上げます。

新型コロナウイルス感染症により、あたりまへのことがあたりまへでなくなった世の中。それは、神社でもあたりまへの光景を一変させ祭礼や神賑行事も規模縮小、中止となり、氏子崇敬者との接点が減少してから三回目の春を迎えました。

進化論を唱へたダーウインは、「この世に生き残る生き物は最も力の強いものか。さうではない。最も頭のいいものか。さうでもない。それは変化に対応できる生き物だ」といふ考へを示したと言はれてゐます。

先人達がこれまでの歴史の中で数々の困難を乗り越えてきたやうに、我々青年神職も環境の変化に伴ひ伝統文化を守り伝えるために変革の時期を迎へてゐます。ウィズコロナと呼ばれる新しい時代になった現在、革新的な技術やサービスは日々変はりゆく社会課題を解決するために必要不可欠であります。デジタル等の新たな力を取り込みながら神職としての本分である祈りを重ねアフターコロナへ向けて祈りと行動を積み重ねて参ります。オンラインにより便利になったことにより導入が問はれてゐるオンライン祈禱や御守のネット授与などについてもあらゆる側面より議論していくと共に、新たな時代における青年神職として

相応しい活動を検討実施していきたいと思ひます。コロナ禍で定着したSNSやウェブ等を用ゐる対内にも対外にも向けた新たな活動を展開していきたいと考へてゐます。

昭和四十七年五月十五日に沖縄県が本土復帰してから五十年。この節目にあたりこれまで当会を始め斯界が取り組んできた英霊顕彰の活動を踏まへた上で、コロナ禍であるが故に事業の本質を考へ次代に引き継いで参りたいと考へ聖寿奉祝の碑に会員が集ひ沖縄本土復帰五十周年奉告祭を行ふ計画をしてゐましたがコロナ禍で叶はず、全国各地より思ひをひとつに祈りを捧げたいと思ひます。また新型コロナウイルス感染症が蔓延してから二年になりますが十月が二年連続で感染者数が減少してゐることから状況が整へば沖縄に全国会員の代表奉仕のもと、沖縄戦全戦死者慰霊祭を斎行したいと計画してをります。更に聖寿奉祝の碑・竹島之碑・北方領土の碑の三か所の祈願碑に於いて終戦七十五年である令和二年三年に叶はなかつた祈りを捧げ清掃を行ひたいと考へてをります。

神宮大麻全国頒布百五十周年といふ節目に神宮大麻頒布促進活動を強く推し進めるため、頒布活動に取り組む会員はもとより巫女や将来を見据ゑ学生にも役立ち学びや気付きを得られる新たな形での研修や年末年始の大麻頒布に際し助勤の方にも理解が得やすいやう三分の動画を作成し、より一層の神宮大麻の頒布向上に寄与する事業を計画します。

まだまだ直接集ふことが難しい現状ですが、ウェブを活用し今だからできること、今やなくてはならないことを実践し挑戦

を続けていきたいと思つてをります。時代を変へることができるのは、未来を変へることができるのは、今しかありません。コロナを言ひ訳にすることなく歩みを止めることなく、地道に一步一步進んで参りませう。

気持ちにはポジティブに。しかしコロナが悪化することも想定し備へつつ先々を見通しながら知恵を絞れば、必ずやこの難局を打破できるはずです。

今期も折り返し地点です。一年前にまいした種が花開かうとしてをります。残り一年もみなさんと手をたずさへ、コロナといふ難敵に立ち向かつていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。



神宮大麻全国頒布百五十周年特集記事



令和四年は、明治五年の神宮大麻全国頒布の開始より百五十年の節目の年にあたります。

〈神宮大麻の語義〉

神宮大麻「じんぐうたいま」は頒布大麻「はんぶたいま」とも通称され、全国の氏神さまより各家庭へ頒布してゐる伊勢の神宮の御神札です。「大麻」は「おおぬさ」と読み、神々への捧げ物、お祓ひの際に用ゐられる木綿や麻を指してゐます。このことから、厳重なお祓ひを経て頒布される御神札を「大麻」と呼ぶやうになりました。

〈御師と御祓大麻〉

平安時代後期より明治時代までは御祓大麻「おはらいたいま」、また「お祓ひさん」などと称され、伊勢の御師「おんし」と云ふ師職「ししょく」の手によって、全国で配られてゐました。御師は、各家に神楽殿を設け、師檀関係にある檀那のための御祈祷や宿泊、神宮への参宮案内なども行つてゐましたので、全国的な伊勢信仰の広がりや参宮誘致に「役買」つてゐましたが、私の性質を帯びてをり、時代が進むにつれ、様々な弊害が生じました。明治維新となり新政府による神祇制度の改革として同四年（一八七二）七月、神宮御改正が行はれ、師職は廃止され、御祓大麻の配布も禁止されることとなりました。

〈神宮大麻〉

これまでは御師が仲介となつて、神宮と

国民を結びつけてゐましたが、神宮御改正により神宮と国民の関係性が全く断絶させてしまふことが憂慮され、御祓大麻が幕を閉じると同時に、明治五年（一八七二）四月一日に「神宮大麻御霊奉行式」が斎行され、ここに新たに「神宮大麻」が誕生し、国家制度のもと全国へ頒布されることとなりました。この時奏上された祝詞に

（前略）天皇の大神以て天の益人等に

朝に夕に皇天御神の大前を懐敬ひ拝ましめ給ふとして、今年より始めて畏き大御霊を天下の人民の家々に漏れ落ることなく頒ち給はむとす（以下略）

とあり、神宮大麻が天照大御神を拝み奉る大御霊であること、また天皇の大神により全国民へ漏れ落ちることなく頒ち給ふと、神宮大麻の定義について明確に述べられてゐます。

頒布については神宮教院に始まり、神宮奉斎会、神宮神部署を経て、大日本神祇会（全国神祇会）により頒布されてゐましたが、終戦による占領と混乱の中、昭和二十一年（一九四六）、神宮司庁及び神宮神部署の官制が廃止され、神社本庁へと委託され、現在に至つてゐます。

〈頒布大麻と授与大麻との違いについて〉

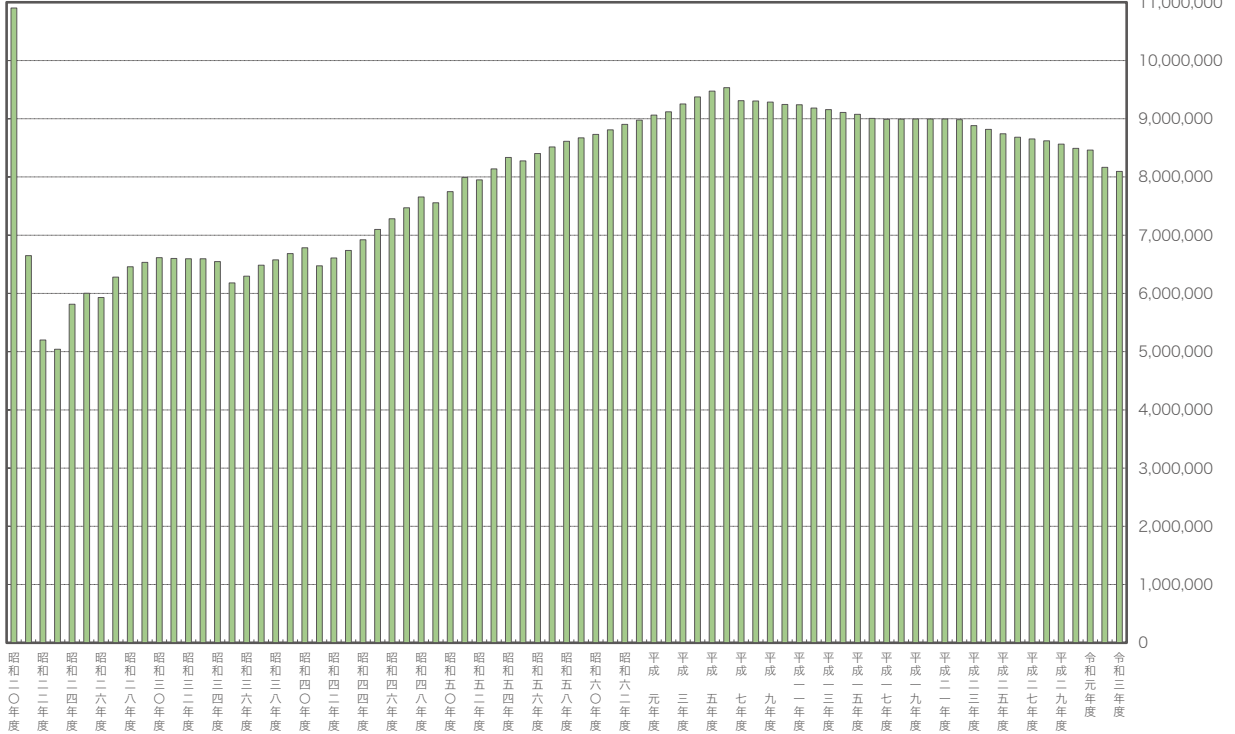
神宮の御神札には頒布大麻とは別に、内宮・外宮の神楽殿で授与されてゐる授与大麻「じゅよたいま」と云ふ御神札があります。頒布大麻が明治天皇の思召しにより、大御神の大御霊として頒布されてゐるのに対し、授与大麻は神宮に参拝された方の個人的な願意を含めた参宮の「しるし」としての折念が込められてゐます。どちらの御神札も大御神の御神徳を仰ぐ御神札には違ひないですが、所謂御師が私邸で祈祷し配

神宮大麻頒布数（全国）

昭和20年度 昭和23年度
10,902,393 5,042,213

平成6年度
9,532,649

令和3年度
8,095,073



布してゐた御祓大麻の性質を含んでゐるの
が授与大麻になります。

〈神社本庁の諸施策〉

神社本庁では昭和二十一年に神宮司庁より
神宮大麻頒布を委託されてから今日に至
るまで、様々な施策を展開されてゐます。

・第五十九回神宮式年遷宮にあたり頒布増
加運動（昭和二十八年）

・神宮大麻全国頒布九十周年にあたり頒布
増加運動（昭和三十一年）

・神宮大麻全国頒布百年を目標とする大麻
奉斎家庭の増加運動

（昭和四十四年～同四十六年）

・神宮大麻頒布都市並びに団地対策（昭和
五十二年～昭和六十年）

・一千万家庭神宮大麻奉斎運動 指定県制
度（昭和六十二年～平成十五年）

・一千万家庭神宮大麻奉斎運動 モデル支
部制度（平成十七年度～平成二十四年度）

・三力年継続神宮大麻都市頒布向上計画
（平成二十六年度～令和四年度）

この間昭和六十二年から実施された
「一千万家庭神宮大麻奉斎運動 指定県制
度」では、一指定県につき三年を期間とし
て平成十五年まで奉斎運動を展開、この期
間中の平成十六年には戦後最高の九五三万
体の神宮大麻頒布数となり、ところが、添付
の神宮大麻頒布数グラフの通り、平成十六
年以降、神宮大麻頒布数は減少傾向が続い
てゐます。

また、平成二十六年に神社本庁が実施
された『伊勢神宮』に関する意識調査に
よれば、神棚の奉斎率について、平成
二十六年時点で三六・四％となつてをり、

過去約二十年前には五割を越える神棚奉斎
率があったことと比較すればこちらも減少
傾向にあります。加へて、神宮啓発委員会
が平成二十九年十二月から平成三十年二
月にかけて実施した國學院大學、皇學館大
学、全学連生を対象とした「家庭祭祀に関
するアンケート」（九三六名回答）によれば、
住まいに御神札をお祀りしてゐる方は神道
学部生に於ても全体の凡そ六割、他学部生
で全体の四割を下回る結果がでてゐます。

〈神宮の参拝者数増加と神宮大麻奉斎の減少 見えてきた課題〉

前回の第六十二回神宮式年遷宮の際に
は、気運の高まりとともに年々参拝者数
が増加し、遷御の年である平成二十五年には
一四二〇万人余の参拝者が神宮を訪れまし
た。その後も新型コロナウイルス感染症が
発生するまで約八〇〇万人～一〇〇〇万人
と云ふ高水準で推移してゐました。

一方で、神宮大麻の頒布数は戦後から平
成まで右肩上がりに増え続けたものの、
平成十六年度以降は減傾向が続いてゐま
す。つまり、神宮への参拝者数の増加が必
ずしも神宮大麻頒布数増と結びついてゐ
ない現実が今起こつてゐるのです。このこ
とは仮に神宮への参拝者の増加に伴ひ授与
大麻の頒布数が増え、その結果として神宮
大麻の頒布数が伸びないと云つた現象が起
きてゐるのだとすれば説明がつくのかもし
れません。しかしながら、前述のやうに、
神宮大麻は天照大御神の大御璽として明治
天皇の思召により頒布される唯一無二
の御神札であり、授与大麻と性質が異なり
ます。

このことから神宮大麻頒布数の増加、
減を防ぐためには、神宮大麻の本義を正

令和3年度 神宮大麻及び暦頒布数（前年度との比較）

令和4年3月31日現在

区分	大 麻	中大麻	大大麻	計	前年度計	比較増 △減	神宮暦	大 暦	計	前年度計	比較増 △減
東 京	353,839	14,446	2,174	370,459	366,326	4,133	1,560	174	1,734	1,683	51
神奈川	228,927	19,440	694	249,061	249,061	0	2,177	26	2,203	2,630	△ 427
埼 玉	271,459	3,333	138	274,930	283,067	△ 8,137	339	12	351	381	△ 30
群 馬	158,364	2,705	991	162,060	172,732	△ 10,672	553	12	565	576	△ 11
千 葉	259,391	4,941	932	265,264	268,187	△ 2,923	1,008	47	1,055	976	79
茨 城	71,867	121,056	1,251	194,174	194,738	△ 564	1,806	16	1,822	1,878	△ 56
栃 木	143,000	5,110	1,705	149,815	155,045	△ 5,230	3,095	8	3,103	3,174	△ 71
山 梨	94,082	11,712	1,579	107,373	108,472	△ 1,099	58	8	66	69	△ 3
北海道	449,845	3,767	233	453,845	459,590	△ 5,745	487	51	538	487	51
宮 城	198,442	19,387	807	218,636	220,630	△ 1,994	566	19	585	876	△ 291
福 島	221,376	8,726	763	230,865	236,630	△ 5,765	338	52	390	425	△ 35
岩 手	155,929	6,358	667	162,954	163,821	△ 867	74	12	86	84	2
青 森	141,101	3,118	329	144,548	148,888	△ 4,340	214	15	229	261	△ 32
山 形	116,717	10,371	965	128,053	129,745	△ 1,692	15	25	40	40	0
秋 田	112,937	3,062	662	116,661	118,834	△ 2,173	97	14	111	111	0
三 重	178,900	3,636	110	182,646	182,790	△ 144	2,000	40	2,040	2,370	△ 330
愛 知	359,003	57,475	1,373	417,851	412,979	4,872	400	5	405	405	0
静 岡	277,346	16,556	2,632	296,534	296,160	374	1,948	236	2,184	2,200	△ 16
岐 阜	232,354	23,330	1,465	257,149	257,844	△ 695	1,808	321	2,129	2,151	△ 22
長 野	190,137	23,106	5,691	218,934	223,026	△ 4,092	1,084	126	1,210	1,208	2
新 潟	338,008	5,652	595	344,255	347,726	△ 3,471	3,506	124	3,630	3,925	△ 295
福 井	92,083	893	50	93,026	94,005	△ 979	907	23	930	910	20
石 川	166,119	107	21	166,247	168,377	△ 2,130	55	7	62	90	△ 28
富 山	204,345	885	116	205,346	204,976	370	806	27	833	945	△ 112
京 都	109,328	3,447	377	113,152	113,150	2	717	134	851	842	9
大 阪	132,040	850	64	132,954	132,225	729	206	10	216	265	△ 49
兵 庫	191,616	4,013	364	195,993	194,488	1,505	704	18	722	725	△ 3
奈 良	57,000	30	10	57,040	57,962	△ 922	1,001	1	1,002	1,036	△ 34
滋 賀	117,761	3,190	186	121,137	121,135	2	283	23	306	299	7
和歌山	69,943	64	13	70,020	71,748	△ 1,728	302	9	311	285	26
鳥 取	51,496	6,515	347	58,358	58,681	△ 323	479	15	494	490	4
鳥 根	103,949	3,213	1,031	108,193	110,673	△ 2,480	608	16	624	866	△ 242
岡 山	135,885	7,677	2,034	145,596	144,464	1,132	840	114	954	895	59
広 島	130,997	4,962	956	136,915	138,125	△ 1,210	2,068	19	2,087	2,154	△ 67
山 口	112,380	8,633	955	121,968	123,823	△ 1,855	3,012	157	3,169	3,305	△ 136
徳 島	67,775	3,747	29	71,551	72,054	△ 503	124	1	125	130	△ 5
香 川	99,401	87	37	99,525	102,431	△ 2,906	659	17	676	575	101
愛 媛	115,927	2,948	505	119,380	119,336	44	57	23	80	62	18
高 知	63,033	1,841	61	64,935	66,909	△ 1,974	527	10	537	487	50
長 崎	130,439	1,298	234	131,971	131,673	298	67	30	97	97	0
福 岡	265,553	5,542	513	271,608	272,198	△ 590	1	1	2	2	0
大 分	95,705	4,671	1,105	101,481	102,802	△ 1,321	1,051	7	1,058	932	126
佐 賀	82,220	4,575	452	87,247	88,007	△ 760	50	15	65	65	0
熊 本	200,312	4,478	461	205,251	207,435	△ 2,184	3,106	70	3,176	3,402	△ 226
宮 崎	105,672	5,202	1,615	112,489	113,220	△ 731	4,021	29	4,050	4,005	45
鹿児島	136,650	846	527	138,023	138,203	△ 180	2,483	12	2,495	2,645	△ 150
沖 縄	19,600	0	0	19,600	19,600	0	10	0	10	10	0
合 計	7,610,253	447,001	37,819	8,095,073	8,163,991	△ 68,918	47,277	2,131	49,408	51,429	△ 2,021

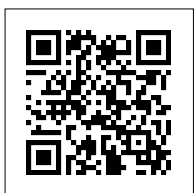
出典元 「神宮便覧及び神宮大麻暦頒布秋季推進会議資料より」

しく説明する努力と、家庭祭祀の重要性について、私たち青年神職は尚一層強く発信していく行動力が求められてゐるので

す。
この局面を開閉すべく神青協としても全国単位会が一丸となって懸命に神宮啓発活動に取り組んでゐます。

〈神青協全国神宮啓発活動意識調査（令和二年実施）より〉

- ・神宮大麻頒布増体のための取り組み（まとも）
- ・子供神社体験学習など次世代への教化活動
- ・親子参宮団の実施
- ・アンケート調査
- ・初めてお神札を受ける方への神棚無料頒布
- ・啓発チラシポスター等の作製、配布、ポスティング活動
- ・頒布活動時に神職によるお祀りの仕方について説明
- ・新興住宅地への頒布活動
- ・国旗啓発活動に併せて大麻の説明
- ・神宮写真展の開催
- ・神宮に関する講演、研修の企画及び参加
- ・初穂曳き等神事・行事への参加
- ・神棚祭の斎行（神さまを尊ぶ心を育てる）
- ・単位会広報誌へ神宮大麻について掲載
- ・SNSによる神宮祭事投稿のシェア



全国神宮啓発活動意識調査

〈結びに〉
神社と地域社会の絆を深めていくにあたり最も重要なことは、神職の姿勢以外に他

なりません。お仕へする神職が神の尊さを現す事ができる、この信念を持って生きてゐるかどうかに尽きるのです。神宮尊崇の気運を高める為に私たちが行ふ施策の全ても、同じくここにかかってゐます。

一昨年来の新型コロナウイルスにより、日常が大きく変化してゐる中、神宮啓発活動を考へる上で青年神職として揺らぐことなく、強く意識し続けることは何か、それは次期式年遷宮を見据ゑた「参宮促進活動」と「神宮大麻頒布促進活動」に尽きます。このことが、神宮式年遷宮の「ごころ」を守り伝へると云ふ、神宮啓発委員会の設立趣意書に込められた最大の目的にも繋がってゆくの

です。
神宮啓発委員会では、令和三年度に頒布促進事業として、来たるべき神宮大麻全国頒布百五十周年に向け、「神宮大麻頒布促進啓発チラシ」を作製しました。

これは、神宮大麻の本義や尊厳を正しく理解して戴くことを目的に作製したもので

す。
また本年度は九月に「神職のための神宮研修会」と題し、今後の神宮啓発活動の一助となるやう頒布始祭前に改めて神宮大麻や、神宮と式年遷宮に関する学びの機会を得たいと考へてゐます。

神宮大麻全国頒布百五十周年記念 神宮大麻啓発標語 最優秀賞受賞作品

「神棚に 今日も家族の ありがと」
そんな真心がいつまでも続いていくやうに 未来のために：

今こそ私たち青年神職が「和」の力を以て一丸となり、斯界の発展のため共に手を携へて歩んで参りたいと存じます。

（神宮啓発委員長 上野 潤）

神宮大麻がご家庭に届くまで

奉製に関するお祭り

大麻奉製始祭（二月上旬）

奉製作業を開始することを大御神に奉告し、その年の最初の神宮大麻に神霊を授けられます。



奉製を行う神宮職員（大麻奉製員）は毎朝、潔命（けいめい）して身を清め、神宮遷（うつ）り後の、丁寧に作業にあたります。

※神職：神宮神さまのおしるし

大麻用材伐始祭（四月中旬）

神宮大麻の御用材を伐り始めるにあたり、作業の安全を祈願します。

御用材には皇大神宮（内宮）の南方に位置する神路山（かみみち）の木々が用いられます。



大麻奉製終了祭（十二月下旬）

今年一年の奉製が終了したことを大御神に奉告します。

大麻修祓式（随時）

清浄を期して奉製された神宮大麻はお祓いされ、頒布始祭まで神宮で奉安されます。

※完成した神宮大麻には白い薄紙が巻かれ、皆様のお手元に届くまで穢れなきよう、清浄が保たれます。



※頒布：広く配ること

頒布に関するお祭り

神宮大麻頒布始祭（九月十七日）

今年の頒布を始めることを大御神に奉告し、奉製された神宮大麻が神宮大司宮より神社本庁の統理（代表）



へと授与されます。その後各都道府県神社庁へ届けられ、頒布始祭告祭が執り行われます。

神宮大麻頒布終了祭（三月五日）

神社本庁統理以下、各都道府県神社庁代表者が参列のもと、恙なく頒布を終えたことを大御神に奉告します。

ご家庭への頒布

（十月・十二月）

神職、氏子関係者の手によって各ご家庭へ頒布されます。現在の全国各地への頒布は、明治天皇の思召により明治五年から始まりました。神宮大麻は各神社においても授与しています。



発行人/ 神道青年全国協議会



神宮YouTubeチャンネル（心の循環）



第七十三回定例総会

四月二十六日、神社本庁大講堂に於いて、神道青年全国協議会第七十三回定例総会が開催された。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、神社本庁とウェブによるハイブリッド形式での開催となった。また、総会の様子は動画配信サイトYouTubeでライブ配信され、全国会員の視聴も可能とした。

正午より開会式が行はれ、小林会長挨拶の後、御来賓として吉川通泰神社本庁副総長より御祝辞を賜った。定例表彰では最優秀事業賞として、埼玉県神道青年会「神宮大麻全国頒布百五十周年 埼玉県における伊勢神宮参詣資料の調査」、最優秀広報賞として、長野県神道青年会「長野県内神社氏子区域一覧」が受賞し、以下優秀事業賞、優秀広報賞、周年事業賞、特別賞、教化事業賞が発表され、小林会長より各地区・単位会代表者へ表彰状が授与された。また、令和三年度中央研修会を担当した、新潟県神道青年協議会に感謝状が授与された。

審議は、昨年選出された議長の神奈川県神道青年会守屋隆広君、副議長の京都府神道青年会北川真喜子君の下、議事が進行された。

先づ、令和三年度会務報告について、小林会長以下、委員長より説明があり承認された。次に令和三年度補正予算、決算に関する議題について、藤原副会長より説明があり、西高辻監事より監査報告が行はれ承認された。

休憩をはさみ、令和四年度活動方針並びに事業計画について、小林会長以下担当副会長より説明があり承認された。次に令和四年度一般会計歳入歳出予算案について藤原副会長より説明があり承認された。

最後に東京都の山口祐樹決議起草委員長より報告された「第七十三回定例総会決議案」が承認され、すべての議案審議を終へた。

閉会式では、会長挨拶に続き千秋参与の先導による聖寿万歳を奉唱し閉会となった。

総会終了後は、令和四年度事業に関する報告会と題し、渉外委員会、事業委員会、神宮啓発委員会よりそれぞれ説明があり、令和四年度の事業への協力を求めた。その後、神社本庁に参集した役員と代議員で明治神宮に参拝し令和四年度への決意を新たにした。



令和四年度定例総会決議

人々の価値観と生活様式は目まぐるしく変化してゐるが、神祇祭祀が日本の精神的基盤であることは不変である。

神宮大麻全国頒布百五十周年、沖繩本土復帰から五十年の節目を迎へる今、我々青年神職は神宮尊崇・英霊顕彰の洵の心の下に大同団結し、伝統を守りながら新たな取り組みに目を向け、神社神道の興隆に寄与すべく、決意を新たにす。

右、決議する。

令和四年四月二十六日

神道青年全国協議会 第七十三回定例総会



令和四年度活動方針並びに事業計画

新型コロナウイルス感染症により、あたりまへのことがあたりまへでなくなった世の中。それは、神社でもあたりまへの光景を一変させ祭礼や神賑行事も規模縮小、中止となり、氏子崇敬者との接点が減少してから二年が経過した。

国内情勢はもとより世界の先行きも混沌とした中にあり、人々の価値観と生活様式が大きく変化し続ける今、我が国、そして当会にとっても大きな転換点を迎へてゐる。

進化論を唱へたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は最も力の強いものか。さうではない。最も頭のいいものか。さうでもない。それは変化に対応できる生き物だ」といふ考へを示したと云はれてゐる。

先輩諸氏がこれまでの歴史の中で数々の困難を乗り越えてきたやうに、我々青年神職も環境の変化に伴ひ伝統文化を守り伝えるために変革の時期を迎へてゐる。

令和四年もコロナの大波に襲はれるかもしれないが我々は歩みを止めることなく活動に邁進していこう。ウイズコロナと呼ばれる新しい時代になった現在、革新的な技術やサービスは日々変はりゆく社会課題を解決するために必要不可欠である。物事の本質を捉へデジタル等の新たな取り組みに目を向けていこう。

このコロナ禍により少子化に拍車がかかったとされてゐる。総務省統計局によると令和三年の全人口は一億二千五百四十八

万人。十五歳未満は全人口の一割少しの千

五百二万人。六十五歳以上の高齢者は三割程の三千六百十九万人。三十年後には全人口が九千万人を割り、高齢化率は四割に近い水準になると推計されてゐる。今地球規模で様々な二〇三〇年問題が取りざたされてゐる。日本における二〇三〇年問題とは

十年後に迎へるとされる超高齢社会を始め人口減少・少子化が引き起こす社会問題のことだ。高齢化した社会が問題ではなく、少子高齢化が結果的に引き起こしてしまふ

経済の悪化や伝統文化の消滅が危惧されてゐる。核家族化も増加してをり世代間のつながりや関わりが希薄になることで地域の伝統文化にふれる機会も益々減少していく恐れがある。神社は人々が集まることを前提として祭礼行事を行ひ氏子崇敬者との紐帯を強固にしてきた。精神的にも物質的にも開かれた神社として地域社会における精神的な核・心の拠り所としての役割がこれまで以上に求められる。

かうした危機に、神社また神職一人ひとりが、世の中や地域から必要とされる存在であり得るのか、あり続けられるのが今問はれてゐる。我々は地域の神社としてできることは何かを考へ次の世代を担ふ子供たちが神社との接点を持つ機会を創出していききたい。日本祭典。祭の力で地域を。ひいては日本を元気にしていきたい。

昭和四十七年五月十五日に沖縄県が本土復帰してから五十年。この節目にあたりこ

れまで当会を始め斯界が取り組んできた英霊顕彰の活動を踏まへた上で、コロナ禍であるが故に事業の本質を考へ次代に引き継いで参りたい。

聖寿奉祝の碑に会員が集ひ沖縄本土復帰五十周年奉告祭を行ふ計画をしてゐたがコロナ禍で叶はず、全国各地より思ひをひとつに祈りを捧げたいと思ふ。また新型コロナウイルス感染症が蔓延してから二年になるが十月が二年連続で感染者数が減少してゐることから状況が整へば沖縄に全国会員の代表奉仕のもと、沖縄戦全戦歿者慰霊祭を斎行したい。

昨年は計画したが叶はなかつた仏教青年会と疫病退散の祈りを捧げ、京都御所の清掃や、氏子青年会との神宮古殿地清掃・献米事業なども引き続き計画し関係団体との協力を密に今後の展望も見据えて活動していく。さらに聖寿奉祝の碑・竹島之碑・北方領土の碑の三か所の祈願碑において終戦七十五年である令和二年に叶はなかつた祈りを捧げ清掃を行ふ。

教化活動は、これまで同様に研修会等を通じ、時宜を得た研鑽を積み重ねる。青少年教化にも注力していく。

オンラインにより便利になったことにより導入が問はれてゐるオンライン祈禱や御守のネット授与などについてもあらゆる側面より議論していく。

事業委員会は新たな時代における青年神職として相応しい活動を検討実施していく。コロナ禍で定着したSNSやウェブ等を用ひ対内にも対外にも向けた新たな活動を展開していく。事業頒布品は、日々の社頭奉仕の一助となるもののみならず、神職

の資質向上に資する頒布品を模索する。

広報委員会は、全国会員に神青協の活動を周知することはもちろん、今、必要とされる情報、検討すべき諸課題を取り上げ、各単位会における事業構築の一助となる発信を行ふ。また広く国民へ発信すべき情報を、各種広報媒体を通じ情報発信する。昨年発行した神青協七十年史を機に過去の事業の記録を整理し残す。さらには、我々の活動が他の広報媒体等において広く対外に発信できるやう新たな形を模索する。これまで多くのメディアやSNSを使ひ情報発信してきたがチャネルが細分化され発信先が増えた分、従来通りの手法に捉はれることのない各々の特色を活かした、より戦略的かつ連続的に広報活動を展開していく必要がある。これまでの広報活動で積み上げてきた経験や実績を活用し、さらなるフォロワーを獲得することができれば、ただの情報発信ツールからコミュニケーションツールとなり、共感と信頼を獲得し、事業をムーブメントに変へることを期待する。そしてこれまで以上に相手に効果的に伝はるメッセージを発信しなくてはならない。受け手の立場に立つて、人々の心に刺さる戦略的かつ愛と勇気溢れる発信をしていく。

神宮啓発委員会は神社本庁が本宗と仰ぐ伊勢の神宮のさらなる啓発、氏子崇敬者のより一層の参宮促進、神宮大麻の頒布向上に寄与する事業を計画する。神宮大麻全国頒布百五十周年といふ節目に神宮大麻頒布促進活動を強く推し進める。頒布活動に取り組む会員はもとより巫女や将来を見据え学生にも役立ち学びや気付きを得られる新

たな形での研修を企画実施する。次期式年遷宮に向けて青年神職としての関わり方や一般の方への参拝周知に向けて何ができるかを検討・提言する。

総務関連については、これらの活動を支へる屋台骨として、建設的な組織運営、会議の運営を行ふ。より高度で円滑な運営を行ふことを目指し、ウエブを取り入れた申請やスリム化と合理化を図りながら、注力すべき職務に専念できるやうにする。過去の会議資料を整理し、これまでの経緯を踏まへた上で各種活動や災害対策に関する活動がすぐに展開できるやうに会員ページに掲載する。また、単体会からの付託に応へ、単体会と共に歩む、開かれた神青協の構築に尽力する。その他、単体会との連絡調整役、時代に即した会務運営を行ふ。

「神青協組織検討会議」では会議、事業の在り方等もまた組織も、時代により見直す必要がある。引き続きあらゆる側面から現状を見直し、五年、十年先を見据えた展望のもと、今後の神青協の指針を定める。我々は八十周年にむけてどうあるべきか。どう在りたいか提言をまとめる。

新型コロナウイルスの閉塞感の中にあリ、我々はいま何ができるのかを改めて問はれてゐる。当会の目的「単体会の意見に基づき、各種活動を通じて日本の正しい発展と神社神道の興隆を期する」に基づき、大同団結で進んできた方向をさらに進め、会員が各々の地域で光輝き、地域を照らす光となり、全国三千五百人の光が日本を明るくすることをめざしていきたい。全国会員の絆を一つに結び固めて、この時代の大転換期に臨んでいかう。

令和四年度委員会基本方針並びに事業計画

総務局

〈基本方針〉

当会の建設的な組織運営と円滑な会議運営の実現を目指し、効率的に職務を遂行する。そして、各委員会との連携を密にし、事業が滞りなく進められるやう支援を行ふ。

また、当会の窓口として各地区や各単体会との連絡調整を行ひ、諸活動の円滑な運営を遂行する。

さらに、常に運営の在り方を検証し、時代に即した会務運営に努めていく。

〈事業計画〉

- ①総会、役員会及び諸会議の設営と運営
- ②各種資料の精査・保管
- ③会計管理及び財務諸般の検討と適正な運用
- ④適切な情報管理と情報共有の徹底
- ⑤会則及び諸規程の管理
- ⑥令和四年度基本資料の作成
- ⑦顧問会、菊波の友垣会の開催
- ⑧定例表彰の実施
- ⑨サーバーの管理

教化委員会

〈基本方針〉

コロナ禍とそれに伴ふオンライン対応の需要の高まり、少子高齢化、多様化社会など、神社を取り巻く環境は目まぐるしく変化してゐる。そのやうな中で、我々青年神職には神道の伝統を守りつつも新しい時代

に対応できる知識や技能が求められてゐる。特にインターネットを通じての神徳宣揚に関しては、伝統護持と若年層の信仰拡大の両面から議論を深める必要がある。

各種研修会を通じ、斯界が内包する諸事象を取り上げ知識を共有し課題を明らかにすることで、会員各位の資質向上と日々の神明奉仕に於ける意識の高揚を図る。

また、次世代に日本の文化・伝統、神道精神を正しく伝へると共に、地域社会から求められる新たな教化手法や神社振興策について一層の研鑽を深める。

〈事業計画〉

- ①夏期セミナーの開催
期日 令和四年八月三十日～三十一日
場所 神社本庁
主題 『意識改革』多様化する社会に適応するために』
- ②中央研修会の開催
期日 令和五年三月八日～九日
場所 徳島県(四国地区主管・徳島県担当)
主題 「想ひ」を繋ぐ受け継がれしものを次の世代へ(仮)
- ③青少年教化育成事業の企画
- ④神社護持運営に於ける新たな手法に関する調査・研究

広報委員会

〈基本方針〉

当会の活動内容を会員へ周知することは

もとより、今必要とされる情報・検討すべき諸課題を取り上げ、各地区・各単体会における事業構築の一助となる情報発信を行ふ。

また、各委員会と連携し魅力ある広報に努めると共に、戦略的に各種広報媒体を用ゐ、全国会員同志との架け橋となり、更には広く一般へ伝はる広報活動を展開していく。

加へて、過去の事業の記録を整理・保管し、次期に引き継ぐ。

〈事業計画〉

- ①会報『神青協』の発行
当会の活動並びに諸事業について周知すると共に、認識醸成と研鑽の機会を提供するべく、年一回発行する。
- ②『神青協通信』の発行
当会の会務・事業等の報告を行ひながら、時事に応じた紙面を作成し、年二回発行する。
- ③ホームページの管理・運用
表現方法を工夫し、より使ひやすく有効な教化活動に活用できるやう管理・運用する。
- ④SNSの管理・運用
発信する情報・届けたい相手に適した媒体を用ゐ、迅速且つ変化に対応した管理・運用を行ふ。
- ⑤動画を用ゐた広報活動
各委員会と連携を図り、資質向上の一助

となる動画を作成・配信する。

⑥新たな広報形態の検討

当会の活動を広く対外的に発信できるやう、管理する媒体の新たな活用方法を検討し、他の広報媒体へも積極的なアプローチする。

渉外委員会

〈基本方針〉

沖縄本土復帰五十年の節目を迎へ、英霊顕彰運動の推進に繋がる活動を展開する。また、各単位の会の時局対策員と連携のうえ、領土領海問題を始めとする我が国を取り巻く様々な時局問題に対して情報の収集と発信を行ひ、問題意識の共有を図る。さらに関係諸団体と積極的に交流を図り共同事業の開催を展開する。

〈事業計画〉

①時局問題並びに地域の諸問題に関する活動
我が国を取り巻く時局問題や地域が抱へる諸問題の情報を発信して問題意識の共有を図り、解決に向けた活動に努める。
また、沖縄本土復帰五十年記念事業を実施する。

②英霊顕彰活動の実施

諸団体と協力し、英霊顕彰活動に取組む。

③諸団体との関係の維持・発展

当会を支持する賛同者、諸団体と連携し、諸問題に対する積極的な啓発活動を展開する。

事業委員会

〈基本方針〉

少子高齢化・過疎化といふ社会問題に伴

ひ、神社の存続危機や後継者不足といふ危機が迫ってきてゐる中、将来を見据へ、今何を学び、どう行動すべきかを主眼に事業を展開していききたい。

対内への活動として、青年神職全体の資質向上を目的とし、当会の活動の認知向上を視野にも入れ、全国組織だからできることを意識し、事業を構築していく。

また、対外への活動としては、人々の価値観が多様化し、世代によって異なることを認識した上で、ターゲットを絞り、効果的な事業を執り行っていく。

〈事業計画〉

①SNSでの教化活動推進

インスタグラムでの「神社フォトコンテスト」の実施、拡充を図る。

②慰霊祭祀舞の作曲作舞

国民に寄り添ふ皇室の「祈り」を表す新たな祭祀舞の作曲作舞。その舞を、末永く残していくべく、研修会を実施する。

③ウェブ研修会の実施

コロナ禍で定着したウェブを用い、多くの会員へ質の高い学びを提供し、研鑽の一助としたい。

④新規事業の展開

時代を見据え、青年神職としての取り組みべき新たな事業を模索する。

神宮啓発委員会

〈基本方針〉

神宮式年遷宮の「ごころ」を守り伝えること。

このことが神宮啓発委員会設立趣意書に込められた当委員会の最大の目的である。

神宮当局におかれては平成二十七年より神宮司庁造宮局を設置し、次期式年遷宮に向けて着々とその準備を進められてゐる。

一昨年来の新型コロナウイルス感染症により、日常が大きく変化してゐる中、青年神職として揺らぐことなく、強く意識し続けるべきことは何か。

それは次期式年遷宮を見据えた「参宮促進」と「神宮大麻頒布促進」に尽きる。今期の神宮啓発委員会はこれを活動の座標軸とし実践に努めてまゐりたい。

参宮促進活動として、コロナ禍に於いて未だ人の移動が抑制されてゐることを踏まえ、今年度は、神宮啓発委員会が主体となつて各地へと赴き神宮写真パネル展を展開することで参宮促進へと繋げてまゐりたい。

また、そこに全国青年神職同志との絆も生まれれば幸ひである。

次に、神宮大麻全国頒布百五十年を迎へた本年、今後の神宮大麻頒布促進に繋がるかどうかは、頒布に携はる神職、氏子崇敬者の熱意にかかつてゐる。従つて神職、巫女に対して学びや役立ちの得られる研修を企画し、また学生など後継者育成を意識した企画も検討してまゐりたい。

その他、広報活動について、現在の多様化した発信方法を例に取り、今後活用していくべき手段についても、発信内容とともに模索しつつ、また、古殿地清掃奉仕など継続事業については、これまでの実施内容や対象を見直し、充実した活動として次期に引き継げるやう努めてまゐりたい。

〈事業計画〉

①参宮促進活動についての企画・検討

②神宮大麻頒布促進、家庭祭祀についての企画・検討
③研修についての企画・検討
④その他、神宮啓発に関する事業の企画・検討

災害対策委員会

〈基本方針〉

神青協及び地区・単位数が行つてきた支援活動の資料や記録の収集を行ひ、災害発災時の対応を検証する。

また、発災時には迅速な対応を図ると共に、神社本庁を始め関係機関と連携を密にし、被災地の要望または災害の規模、その他状況により、特別の対応が必要と認められるときに支援活動等を積極的に実施し、地区・単位数に寄り添つた活動を展開する。

〈事業計画〉

①神青協支援活動、その他支援活動の記録収集及び検証
②青年神職として行ふべき支援活動の検討
③災害発生時における支援活動及びその他必要とされる活動の実施



令和四年度 一般会計 歳入歳出予算書

自：令和4年4月1日 至：令和5年3月31日

歳 入

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減 (△減)	備 考
1. 醸 出 金	5,426,500	5,441,500	△ 15,000	
①会 員 醸 出 金	4,861,500	4,876,500	△ 15,000	1,500円×3,241名
②地 区 醸 出 金	565,000	565,000	0	10地区
2. 助 成 金	150,000	150,000	0	神社本庁
3. 賛 助 金	1,800,000	1,800,000	0	顧問・OB
4. 協 賛 金	2,000,000	2,000,000	0	協賛広告料 (会報・通信)
5. 諸 収 入	234,379	231,850	2,529	
①年賀互礼広告料	231,000	228,000	3,000	各单位会・役員年賀広告料
②雑 収 入	3,379	3,850	△ 471	預金利息他
6. 繰 入 金	5,655,000	1,341,963	4,313,037	基本財産・運用資金特別会計より繰入
7. 繰 越 金	7,174,121	6,806,650	367,471	前年度より
歳 入 合 計	22,440,000	17,771,963	4,668,037	

歳 出

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減 (△減)	備 考
1. 神 事 費	200,000	200,000	0	玉串料等
2. 会 議 費	600,000	750,000	△ 150,000	
①役 員 会 費	300,000	300,000	0	会議室使用料等
②総 会 費	300,000	450,000	△ 150,000	資料作成費・総会案内発送費等
3. 教 化 費	6,850,000	6,550,000	300,000	
①研 修 関 係 費	1,800,000	1,800,000	0	中央研修会助成金150万・各地区研修助成金3万×10地区
②委員会事業費	4,000,000	2,250,000	1,750,000	各委員会事業関係
③教 化 事 業 費	750,000	2,200,000	△ 1,450,000	夏期セミナー・時局関係等
④友好団体関係費	300,000	300,000	0	神社新報社・靖国神社崇敬奉賛会・日本の建国を祝う会 他
4. 出 版 費	2,920,000	2,500,000	420,000	
①出 版 関 係 費	2,500,000	2,000,000	500,000	会報・通信作成費
②発 送 費	420,000	500,000	△ 80,000	会報・通信発送費
5. 庶 務 費	1,600,000	1,600,000	0	
①事 務 費	900,000	900,000	0	郵券代・事務用品・備品等
②事務局派遣費	700,000	700,000	0	本庁総務局員派遣費
6. 出 向 費	1,500,000	1,500,000	0	役員出向費・事業委員出向費
7. 積 立 金	2,300,000	2,430,000	△ 130,000	特別会計 (運用資金) へ
8. 諸 費	200,000	300,000	△ 100,000	慶弔費等
9. 創 立 7 0 周 年 記 念 事 業 費	3,655,000	1,341,963	2,313,037	祭祀舞作曲作舞
10. 拠 出 金	2,000,000	0	2,000,000	神宮啓発事業特別会計へ拠出
11. 予 備 費	615,000	600,000	15,000	
歳 出 合 計	22,440,000	17,771,963	4,668,037	

令和三年度

賛助金御礼

(順不同・敬称略)

神宮 葦津 健次郎
神宮 高橋 弘幸
神宮 中西 直樹
東京都 篠 直嗣
東京都 阿部 明徳
東京都 多田 光武
東京都 土師 幸士
東京都 阿部 康久
東京都 瀧 實
東京都 押見 守康
東京都 小泉 朋昭
東京都 濱中 厚生
東京都 香取 邦彦
東京都 能圓 坊明彦
東京都 大島 居武司
東京都 小野 貴嗣
東京都 北川 憲史
東京都 田中 芳明
東京都 大石 定道
東京都 渡邊 和壽
東京都 今井 達
東京都 松本 仁
東京都 清水 祥彦
東京都 田村 康雄
東京都 小泉 勝俊
東京都 水野 明彦
東京都 松岡 由里子
東京都 押見 匡純
東京都 大塚 圭一郎
東京都 大野 裕丈
東京都 宮崎 真一

東京都 篠 泰比呂
神奈川県 石川 正人
神奈川県 永井 武義
神奈川県 佐野 巖
埼玉県 小林 一朗
埼玉県 鈴木 邦房
埼玉県 吉田 和生
埼玉県 新井 君美
埼玉県 山田 禎久
埼玉県 埼玉 眞臣
埼玉県 角井 眞僚
埼玉県 浄見 雅之
埼玉県 和田 健二
群馬県 梅林 直史
群馬県 瀬尾 孝夫
千葉県 宮間 孝人
千葉県 宮本 勇輔
千葉県 宮間 大輔
千葉県 時田 雄平
千葉県 星次 百太郎
茨城県 木村 明雄
栃木県 黒川 正邦
栃木県 伊原 弘之
栃木県 柳田 耕史
栃木県 稲 寿
山梨県 羽中 田進
山梨県 小佐野 正史
山梨県 乙黒 洋彦
北海道 北方 幸彦
北海道 藤山 敬廣
北海道 池田 清美
北海道 永井 承邦
北海道 森田 邦義
北海道 森 泰文
北海道 植田 淳一
北海道 山口 貴生
北海道 田湯 直宜

北海道 大野 清徳
北海道 加藤 剛
北海道 前田 穰
北海道 伊部 宗博
北海道 狩野 智也
北海道 三橋 厚友
北海道 村井 一介
北海道 中村 文彦
宮城県 佐藤 文比古
宮城県 櫻谷 賢一
宮城県 藤岡 邦彦
宮城県 戸内 康雅
福島県 丹治 正博
福島県 齊藤 秀一郎
福島県 古積 義永
福島県 村上 真也
福島県 大森 幹久
福島県 山名 隆史
岩手県 山下 明
岩手県 荒木 眞幸
青森県 中居 一元
山形県 澁谷 宣寛
秋田県 面山 浩康
秋田県 田村 泰教
秋田県 二階堂 衛
三重県 横地 克重
三重県 山本 行恭
三重県 宮崎 吉史
三重県 宇治土 公祐高
愛知県 小嶋 今興
愛知県 加藤 知史
愛知県 伊奈 徹
愛知県 大須賀 久人
愛知県 安田 光宏
愛知県 三輪 真生
愛知県 西塚 仁詞

静岡県 静岡県 池野 浩司
静岡県 雨宮 盛克
静岡県 谷田 吉和
静岡県 谷田 吉暢
岐阜県 浅野 将伯
岐阜県 梅村 幸司
岐阜県 遠藤 久芳
長野県 宮澤 千尋
新潟県 永井 康之
新潟県 田中 秀孝
新潟県 寺山 仁文
新潟県 梅坂 昌春
新潟県 宮川 脩
福井県 武曾 素行
福井県 馬來田 善敬
福井県 宮川 貴文
福井県 松田 典起
石川県 高島 正光
石川県 河崎 正幸
石川県 厚見 正充
石川県 葛原 秀史
石川県 本嶋 実千浩
富山県 上田 正宙
富山県 横越 照正
京都府 田中 恆清
京都府 中田 幹男
京都府 林 秀俊
京都府 梶 道嗣
京都府 後藤 泰弘
京都府 田中 朋清
京都府 六人部 是充
大阪府 加藤 芳哉
大阪府 南坊城 光興
大阪府 寺井 種治
大阪府 菅尾 龍太
大阪府 長谷川 裕高

大阪府 中塚 昌宏
兵庫県 加藤 隆久
兵庫県 嶋津 幹二
兵庫県 本名 孝至
兵庫県 吉井 良昭
兵庫県 吉井 良英
兵庫県 飯森 隆年
兵庫県 田中国 男
兵庫県 樋口 俊夫
愛媛県 持田 照久
愛媛県 中野 幸彦
滋賀県 山本 賢司
滋賀県 田村 英治
滋賀県 稲毛 友幸
滋賀県 瀧澤 憲興
滋賀県 和歌山県 眞鍋 佳輝
鳥取県 米原 尊仁
鳥取県 中嶋 俊史
鳥取県 大澤 祥之
鳥取県 金田 祐季
鳥取県 千家 尊祐
鳥取県 千家 隆比古
佐賀県 佐草 敏邦
青森県 青木 義親
岡山県 笹井 和男
岡山県 福田 真人
岡山県 吉川 通泰
岡山県 奥 茂宣
岡山県 村田 和之
岡山県 森脇 宗彦
岡山県 松原 弘毅
岡山県 渡部 公彦
岡山県 吉川 泰正
岡山県 金長 広典
岡山県 鈴木 宏明
山口県 黒神 直大

山口県 三ヶ本 雅紀
山口県 渡邊 信敏
山口県 池田 博文
愛媛県 長曾我部 延昭
愛媛県 清家 貞宏
愛媛県 柳原 幸
愛媛県 武智 正人
愛媛県 長曾我部 昭一郎
愛媛県 十亀 博行
愛媛県 田窪 大朗
高知県 川村 公彦
高知県 岡田 博親
長崎県 河原 忠孝
長崎県 河原 忠徳
福岡県 西高辻 信良
福岡県 久富 真人
福岡県 波多野 直之
福岡県 外山 貴寛
福岡県 西高辻 信宏
大分県 神 日出男
大分県 小野 眞一郎
大分県 宮本 隆之
佐賀県 八幡 崇経
宮崎県 申間 祥亮
宮崎県 長友 安隆
鹿児島県 種子田 敬
鹿児島県 谷川 博之

ご支援ありがとうございました。

ございました。

厚く御礼申し上げます。

令和三年度定例表彰一覧

各賞別・推薦書 提出順 ※以下地区名簿順

◆最優秀事業賞



「神宮大麻全国頒布

百五十周年 埼玉県における

伊勢神宮参詣資料の調査」

埼玉県神道青年会

【期間】 令和元年五月～令和四年二月

【事業目的】 本調査の主眼は、埼玉県下の神社に存在する参詣資料を調査・収集・

研究し、自治体史や既存研究との関連性を検討することで、地域史の視点から伊勢信仰や伊勢参宮に関する民俗・宗教文化を考究するとともに地域神社の役割について明らかにすることにある。また、

かかる地域史資料（参詣資料）の再発見と再定義は、小中学校における郷土教育や、生涯学習における教養として社会的に幅広い年齢層から求められてをり、

こうした成果を公開することにより社会貢献の一助となると考へる。

【事業対象者】 埼玉県神道青年会会員

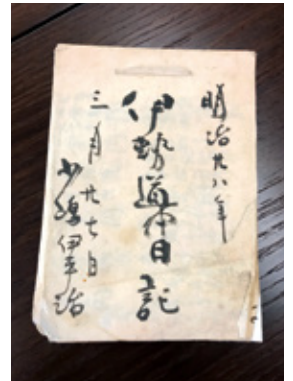
【事業成果】 会員は、調査を通じて埼玉と伊勢の地とのつながりを再認識した。このことが、各奉務神社における神宮大麻頒布の在り方を考へる材料となったのは意義深い。

図書刊行により、郷土における伝統文化としての伊勢信仰の存在を広く一般に示す事となる。「神宮大麻」を祀る意義

や意味を再定義する材料となれば斯道興隆の一助となる。また、県内教育委員会・図書館等に寄贈する事により郷土教育や生涯学習の教材として地域社会への貢献が期待できる。

【事業感想】 調査後の反省会やフェイスブック等で各調査参加者の感想・気付きの報告を逐次行ってきた。その中で、「実際に現地に赴き、残された参詣資料を見ることで、伊勢信仰の歴史を感じることができた。」「参宮のたびに神社境内の設えが整っていた様子が感じ取れた」といふ気付きが共有された。これは、氏神社が伊勢講の集会を開くなど横の繋がりを

持つ空間であるとともに、参詣資料が建立されるなど伊勢信仰の記憶を縦に伝える場所ともなっているといふ意味で、参詣資料が氏神社に残された意義を忠実に捉へてゐる。このやうなことから、本事業は会員にとって充実したものであったと考へる。



まとめ3

敗戦

- 氏神社や伊勢講の持つ軍属性がレジリエンス（復元力）として発揮
- 戦後初の罹災は、占領政策により経済基盤が国から国民に移ったにもかかわらず、四年の遅延で進行された。
- この活動は氏神社を中心とする人々（総代・神職）が広く民衆に呼び掛けて、伊勢講の再結成をすることで成し遂げた事業
- 氏神社・伊勢講・参詣資料によって記憶や体験を共有する人々が多くいたからこそレジリエンス（復元力）が作用し、外的衝撃（占領政策）から伊勢信仰を護ったのではない。



◆最優秀広報賞



「長野県内神社
氏子区域一覽」

氏子区域一覽

長野県神道青年会

【期間】平成二十八年四月～令和三年八月

【作成の目的】時代の流れに合はせ、知りたい時に自分の住まふ氏神（産土神）を

検索できるやう、若い世代へ神社の門戸

を広げると同時に、神社庁のみならず各

社頭において「氏神（産土神）」が知りた

い「照会にその場で回答できる仕組みづ

くりとして冊子を発刊した。

【閲覧対象者】

長野県内 神職及び氏子 崇敬者

【成果】一〇〇%の掲載を目指し、一致団

結の下行った。氏子区域、地域の成り立

ち、地名の編纂など、二次知識を幅広く

得られた。

多くの問ひ合はせにスムーズに対応で

きるやうになり、氏子崇敬者の「氏神神

社」を知りたいといふニーズに答へるこ

とができる。

【読者の声】

・質問者をたらい回しにしてしまふ状況が

無くなった。

・令和の時代に一度まとめ成果物として配

布されたことは将来的にも価値がある。

・なかなかまとまらず大変だったでしょ

う。ありがとうございました。

・氏神神社の責任を改めて感じた。

・青年会でしかできない事業であった。



◆優秀広報賞



「一からはじめ

Instagram及び

当会Instagram

広報の運用について

愛知県神道青年会

【期間】令和三年十月

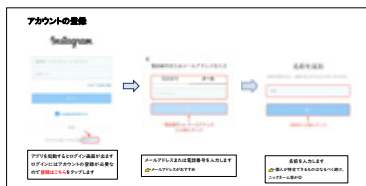
【作成の目的】Instagramを用い

て、当会の活動や県内神社の祭礼・伝統行事などを広報する。またInstagram未経験の会員も多数おり、まずはアカウントの立ち上げから投稿、運用のポイントを学び、SNSを使用できる技術を取得することを目的とする勉強会をオンラインで実施した。

【閲覧対象者】当会Instagramアカウントの訪問者およびフォロー

【成果】Instagramを用いた広報により、若い世代への広報が可能とな

った。会員奉務神社を広報することにより、立地や規模等に関わらず神社を広報する媒体ができた。



【読者の声】投稿を閲覧した会員の知人より、「境内の見どころ写真だけでなく、神主さんの働いてゐる姿が見られてよかった。」との感想をもらった。

◆優秀広報賞



「会報誌『兵庫神青』第百号」

兵庫県神道青年会

【期間】令和三年三月～七月

【作成の目的】「繋がり」をテーマに据へ

て、これから神青活動が続けていく会員に諸先輩方が築いた功績を伝えると共に今後の活動の参考となるやうに、また次代を担ふ若手神職を始め、多くの神職がこれからの神社運営に役立てて戴けるやうな情報を届ける事を目的としてゐる。本号は各社と地域社会の繋がりについて何ふ記事や、神社総代としての声を同ふ為の取材記事を作成。更に、後継者の問題や、未来を担ふ子供達との繋がりを今一度考へるきっかけとする為に、神社保育を運営されてゐる方を始め、子育てに動しむ方にお話を伺ひ、また自分達が子供の頃神社にどのやうな気持ちを抱いてゐたかを伺ひ、記事を作成した。

【閲覧対象者】兵庫県下全神職・神青協役員・全国単位会

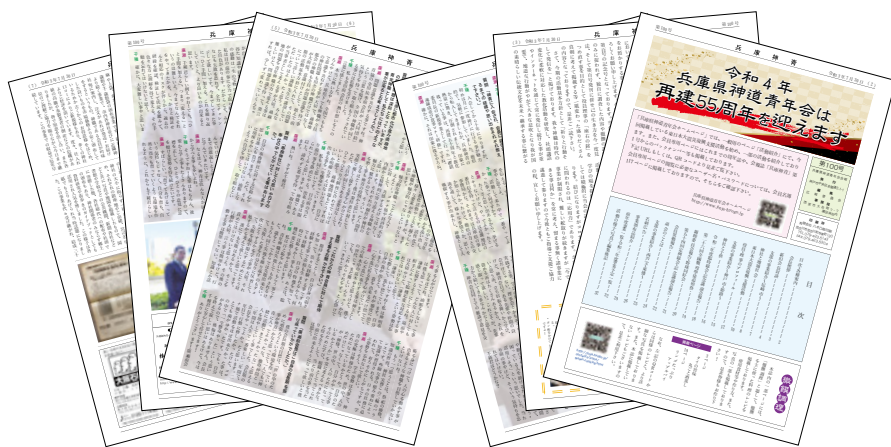
【成果】「役員・理事のプロフィール」にそ

れぞれの座右の銘を掲載した。現役員・理事が改めて自分自身を見つめ直す機会となった。神職のボキャブラリーとして座右の銘は不可欠。役員・理事の今後の人生に役立つ良い機会となった。各社と地域社会との繋がりが、長年神社総代として活動してゐた方への取材、また子供達に対する様々な意見を知ることができ、今後の神社運営や次世代を担ふ子供達への教化活動に参考となる内容になった。

長年総代を務められた方に、総代の立場としてお話を伺ふ事で、今後の神社と総代、また地域との繋がりに関しての参考となる内容となった。また、子供に関するアンケートから、改めて今後の後継者問題や、神社として子供達とのやうに接するのが良いのか等を改めて考へ直すきっかけとなった。今までの広報誌と大きく内容を変へた事で、特に兵庫県内神社からの反響が大きく、兵庫県神道青年会が目される良いきっかけとなった。

【読者の声】

- ・良くできてゐるといふ声を多く耳にしたが、特に表紙と「役員・理事のプロフィール」が面白かったと伺つてゐる。
- ・「撒餌クッキング」といふ発想が青年神職ならではの柔軟さを感じた。実践したところ非常に美味しかった。
- ・撒餌を多く頂いた時に困る事もあるが、かういふレシピを提示してもらふと美味しかった。今後も継続して欲しい。
- ・子供向けの教化活動をどのやうにしたらよいか悩んでいたが、この会報誌を見て方向性が見えてきた。
- ・新旧会長対談は今期にどのやうな思ひで事業に取り組んでいくか、新旧会長が神青に対してどのやうな思ひを持つてゐるか手に取るやうに理解できた。
- ・プロフィールに座右の銘を掲載する事を通じて、これからのどんな生き方をしたいか考へるきっかけを作ったのは非常に意義深いと思ふ。



◆特別賞

「雲仙普賢岳噴火
災害三十年 国家安寧祈願祭」

長崎県神道青年会



【期間】令和三年八月六日

【事業目的】雲仙普賢岳噴火災害から三十年を迎へ、災害の教訓を次世代に継承するとともに、我が国の安寧と益々の発展を祈念する。

【事業対象者】本会会員

【事業成果】祭典を通じて災害の記憶を風化させることなく、その教訓を後世へと継承する決意を新たにすることができた。

長崎新聞・ひまわりテレビ（地元ケーブルテレビ）で取り上げられ、本会の認知度向上と神社界（神道・神社・神職）のイメージ向上に寄与したと考へる。斎行日を「山の日」の直前に設定することによって、国民の祝日の意義啓発にも結び付いたと考へる。

【事業感想】新型コロナウイルス対策として祭典は本会役員のみで奉仕、参列案内も最小限に留めて斎行することとなったが、一般会員には祝詞例文を事前送付して祭典の執行を依頼した。ひとりひとりに出来ることは限られてゐるが、会として、また会員が「丸」となって事業を行ふ（祈りを捧げる）ことの意義や重要さを再認識することができた。



◆周年事業賞

『平成大嘗祭
主基地方風俗舞教本』



「風俗舞伝習のあゆみ」の制作」

大分県神道青年会

【期間】令和二年四月～令和三年三月

【事業目的】平成度大嘗祭主基地方風俗舞の伝習及び理解を目的とする。

【事業対象者】

県内神職及びこれに関わる人

【事業成果】長年の悲願であった風俗舞の習得を後世に正しく受け継ぐ一助となった。

当県が平成の大嘗祭に於いて主基地方であった歴史を一冊の本として残すことができ、これをきっかけに一人でも多くの習得者が増えることを期待する。

◆教化事業賞

「神宮大麻全国頒布
百五十周年記念事業」



三重県神道青年会

【期間】令和三年十二月～

【事業目的】神宮大麻全国頒布百五十周年

といふ節目に、改めて基本に立ち返り、御神札の祀り方や祀る意義を、現代を生きる一般の方々に伝へ理解を深めてもらふこと、延いては神宮大麻頒布を促進することを目的とした。

【事業対象者】事業所および一般人

【事業成果】今後も継続的に使用可能な動画およびプレゼン資料が整ひ、次年度以降の活動に繋がるものができた。

YouTubeを用いることで一般人への視聴が促せる。また、プレゼン資料は会合など様々な場面で使用可能。

【事業感想】アニメーション動画やプレゼン資料、またYouTube広告動画についてはそれぞれ充実した内容の媒体を作成でき、動画とプレゼン資料を用いた事業所や一般の方に対する研修会では興味深く参加を頂いたかと思ふ。広告動画についても実際の数字としても多くの方にご覧頂き、御神札についての一定の興味は持っていたいてあると感じた。

※受賞事業の他エントリーされた事業の詳細については、ホームページ会員向けサイトに掲載してをります。



令和三年度中央研修会報告

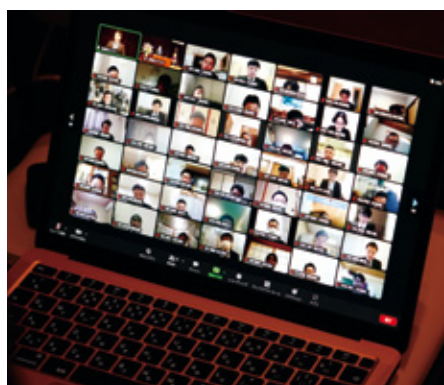


令和四年三月九日、十日と二日間に渡り、北陸神道青年協議会主賓、新潟県神道青年協議会が担当県となり、新潟県新潟市中央区の新潟市音楽文化会館を会場として令和三年度中央研修会が開催された。新型コロナウイルス感染症の影響により三年ぶりの開催となった。開催に至る迄には紆余曲折があった。当初は懇親会会場も含んだホテルでの開催予定だったが、感染状況が見通せない中、会場のキャンセル料の懸念も抱へてをり、研修会と懇親会は別建てとして進めていくことになった。感染症の状況により開催が左右されたことを受け、開催地である新潟県に「まん延防止等重点措置」が開催期間中に適用されてゐれば中央研修会の中止。「まん延防止等重点措置」が開催期間中に適用されてゐる居住地の受講生は参加が出来ないなどの基準を設けた。申



し込み締め切りまでには二百五十名ほどの受講生であったが、中央研修会の開催期間中に十八都道府県に「まん延防止等重点措置」が適用され、最終的に現地での参加者は百三十四名となった。受講が叶はなかった受講生への救済措置としてウェブ配信を行ひ、五十九名がウェブにて受講した。尚、今回の懇親会は見送りとなった。感染症対策として受講生には担当県から事前に抗原検査キットを郵送し、陰性であることを確かめてから現地へ入って頂いた。当日はマスクの着用、アルコール消毒、検温は勿論のこと、大型扇風機なども借り入れ、会場の換気を徹底した。

今回の研修は「発信力×郷土を愛してやまない若者たちへ」を主題とした。日本を取り巻く環境が刻一刻と変はっていく中で、国家国民の安寧を祈る全国の青年神職が我が国の置かれてゐる現状を正確に認識し、確固たる国家観を持った日本人の育成と地域の発展、そして日本の繁栄に寄与するためにいかに行動すべきかといふ自己研鑽を積むことを目的とした。



第一講は「起業家の力で故郷を元気に」神社の魅力発信と未来を考える」と題し、フラー株式会社代表取締役会長の渋谷修太先生よりご講演頂いた。都会よりも地方にエッジの効いた文化が有り、それをデジタルといふ視点で開拓をすれば、より地域に根差したイベントを作ることが出来る。そのためには既存の技術でアプリなどを開発利用し、多くの人に社社の年中行事などを認知してもらひ、参加してもらへる環境を整へることが大事だと語られた。

第二講は「強くて優しい国」と題し、衆議院議員の稲田朋美先生よりご講演頂いた。強さと優しさを併せ持ち、多様性を尊重できる日本を維持するために、まずは力による現状変更を試みようとする勢力が、日本の隣国であるといふ事実を改めて認識しなければならぬ。そして「自分の国は自分たちで守らなければいけない」と述べられ、「防衛力の抜本的強化」「経済安全保障」「国産エネルギーの確保」等に注力するべきと訴えた。



第三講は「青年神職の皆様へ」郷土の精神的支柱と実践者であれ」と題し、NSGグループ会長の池田弘先生よりご講演頂いた。参加した青年神職へ向けた提言として「神道が世界を救う」とも思ひを語られた。日本には多様性を受け入れる文化特徴があることを実例を上げながら説明された。また講演の中で「故郷を思う心に火をつける」と訴えられたことが印象的であった。

コロナ禍の中で開催された中央研修会はまだまだ改善の余地があると思ふが、事業の自粛が続いた中で、一つのモデルケースを示せたのではないかと思ふ。何よりも受講生の協力があつたなかで滞りなく中央研修会が収められたことに感謝申し上げます。
(教化委員 畠山邦洋)



沖縄本土復帰五十周年記念 国土平安祈願祭

令和四年五月十一日、「沖縄本土復帰五十周年記念 国土平安祈願祭」が斎行された。

前号に記載の通り神青協では周年ごとに聖寿奉祝の碑に於ける奉告祭をはじめ、返還運動や英霊顕彰等を行ってゐる。本年は祭典並びに清掃活動に取り組むべく役員二十二名が渡島した。

五月十日、渡島に備へ石垣島に集合した。翌日の波照間島の天気予報は雨。テントなど雨天対策が十分に確保できない離島につき、不安を残しながらも渡島することが決定された。

五月十一日、波照間島の天気予報は変はず雨であった。天候に鑑み滞在時間を短縮するため、石碑の清掃・補修活動を中止し祭典のみを行ふこととした。強風による荒波の中を高速船で渡り、入島後は速やかに移動し南端休憩所に斎場を舗設した。祭典は藤原副会長齋主のもと渉外委員会が奉仕し、小林会長はじめ役員一同が心ひとつに国土平安を祈り、風雨の中にも滞りなく執り納めた。

幸ひなことに今回石碑に大きな破損は見られなかったが、風雨強い地のため砂に埋もれてゐる現状であった。折を見て清掃を行ひ、次代へと受け継いでいかなければならない。十月には沖縄戦全戦没者慰霊祭も控えてゐる。事業完遂への決意を改め帰路に就いた。

(渉外委員 黒木興輔)



「波照間之碑・聖寿奉祝の碑」
動画



沖縄本土復帰五十周年奉告祭祭詞

日乃本國南果波路遙介倭綿津見碧爾伊照留波照間島乃甘処爾我等乃先達實
先帝御在位六十年節目登志氏日乃九手埋込美嚴加爾築建聖壽奉祝乃碑乃廣前手
嚴齋庭被清比神籬齋立氏暫招奉坐奉掛介麻久母畏天照皇大神始天神
地祇八百萬乃大神等乃大前齋主神道青年全國協議會副會長藤原大修恐美
母白左久

過宜爾志數布禮倭早八十一年前昭和十六年十二月八日我國東亞乃安定手図世界
乃平和寄手古今比無大戦突入南乃島々次々占領此沖繩乃

島於國御盾場成登里志加婆軍人非國民母國守我等登里一身一家手母顧
美受祖國守身失給伊志人乃數多爾志云布母悲志極美泰禮氏國民尊犧牲乃上爾

平和繁榮登手亭今在湧出留報賽乃心尽倭受

戰敗外國忌々軍政下息苦日々過中倭母太平手開加年賀為耐難倭
手耐忍難倭手倍登乃大御心爾里志祖國再建乃道開加札此乃南島々外都國乃

黑心爾依他島々切離左禮引統倭占挾口惜事也左礼杼其乃世里
國民拳里一日一時速耶爾旧乃姿還禮手登聲高爾言拳宜為世去昭和四十七年五

月十五日漸久元津祖國復帰先達同思比乃友垣等相議沖繩祖國復帰手
言祝奉後世爾廣久長久伝爾年登國內津々浦々乃由緒有留石手持知寄里波照間乃碑手

造設介年預里五十年年迎専大神達乃恩頼依物八十日日波有礼杼母今日手
生日乃足日選定沖繩本土復帰五十周年乃御祭仕爾奉良久登神道青年全國協

議會會長小林慶直始役員三十名余齋庭参来集比比大前海川山野乃種々
乃味物捧奉拜奉留狀手平良介久安閑食志相諾給比比五十年前此乃島乃児

等里受介志手紙乃波照間島は山も川もない淋しい島ですが私達生徒は共に
励まし助け合い日本の最南端である事を誇りに思い強く明るく頑張つて行

くつもりです。神青協の皆様ありがとうございます。登乃介泰倭言葉手心
爾刻美氏千五百秋波照間碑手抑所守伝行状大神達御心母良爾歡覧志坐
志氏我等行久道伊照輝給比比沖繩戦争身罷給比比諸々御魂等乃乃上哀

美御心母鎮安良久手坐給比日本國往先誤事無久守導四方乃海皆
同胞波風立多受弥遠永立学行加年世作為左志米給比夜守日乃守護惠幸爾
給爾登恐恐美母白頻

沖縄本土復帰五十周年奉告祭式次第

日時 令和四年五月十一日 十二時三十分
齋場 沖縄県波照間島「南端休憩所」

祭典次第

当日早旦齋場を裝飾す

時刻齋主以下祭員参進 是より先手水の儀あり

次に齋主以下祭員所定の座に著く 此の間奏楽

次に修祓の儀

次に降神の儀 此の間奏楽

次に神饌を供す

次に齋主祝詞を奏す 此の間奏楽

次に国歌斉唱

次に齋主玉串を奉りて拝礼

次に神青協会長玉串を奉りて拝礼

次に神饌を撤す 此の間奏楽

次に昇神の儀

次に各退下 此の間奏楽

祭典奉仕者

齋主

副齋主 祓主・陪膳

祭員 大麻所役・警蹕所役・齋主玉串後取

全 塩湯所役・祝詞後取・玉串後取・典儀

伶人 笙

全 筆樂

全 龍笛・国歌斉唱先導

藤原副会長

高島理事

黒木理事

日比野理事

小佐野理事

柳原理事

西田理事

沖縄本土復帰五十周年記念日 国土平安祈願祭 全国一斉奉仕

沖縄県が五月十五日に本土復帰から五十年を迎えた。神青協では、昭和三十三年より沖縄県の本土復帰運動に取り組み、昭和四十七年には、復帰記念として全国の名石を持ち寄り、日本有人最南端の波照間島に「波照間の碑」を建立したのをはじめ、昭和五十二年に国旗掲揚塔、昭和六十年には昭和天皇御在位六十年を記念して国旗プレート埋め込んだ「聖寿奉祝の碑」を建立、そして周年毎に奉告祭を斎行してきた。

本土復帰して五十年の節目の年を迎へ、全国の同志と共に祈りを捧げるべく沖縄県

が本土復帰を果たした五月十五日に国土平安祈願祭を全国一斉に奉仕する事を申し合わせ斎行した。単位会で奉仕した所や各奉仕神社にて執り行った等心を合はせて祈願した。

また全国の会員が自らSNS等で発信し、それぞれがプレスリリースをした事により、各々の地域メディアに取り上げられた。

多くの会員の協力を得て祈りを捧げる事が出来た事を深く感謝申し上げます。

(渉外委員 勝沼達朗)



「デジタル社会における神社の在り方」を学ぶウェブ研修会

事業委員会では、「デジタル社会における神社の在り方」を学ぶウェブ研修会を、ウェブ会議システムZOOMを用いて五月二十日十七時三十分より開催し、全国より約百十名の参加を賜った。

講師には國學院大學研修開発推進センター共同研究員で秋葉山本宮秋葉神社権宮司の河村忠伸先生をお招きし、「神社のオンライン化と教義的理解」と題して研修を実施した。

研修会では、初めに「デジタルシフト社会における神社」の講義を頂き、オンライン参拝やキャッシュレス化について一つの教義的指針を示して頂き、次に運営側で用意したテーマについて、ブレイクアウトルームを用いて十五名程度に分かれてグループディスカッションを行ひ、グループ発表と質疑応答を行った。

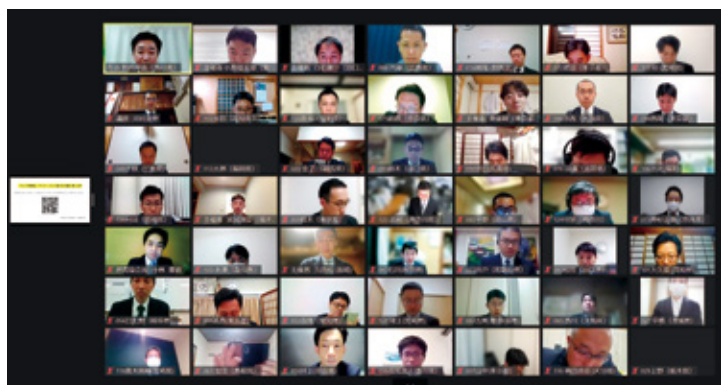
斯界のみならず社会全体が変容していく中で、それをいかに教義的に理解し、神祇信仰を守りつつ、参拝者に寄り添っていくかは避けて通れぬ問題であり、どのグループにおいても各社の実例を共有しながら活発に意見が出された。

参加者からは、正解のない問題を考へる土台となる知識が得られたといった感想があった(終了後アンケートより)。今後自社の方針を決めるにあたり本研修会での講

義や他社の実例、考へ方等を参考にして頂ければと考へてゐる。

(事業委員長 白石健二)

※ホームページ会員向けサイトにて動画の閲覧が可能です。



全日本仏教青年会共同事業

去る、六月十三日（月）十四日（火）と京都府に於いて全日本仏教青年会と共同事業を行った。過去には、懇親会やオンライン対談等を行ひ交流を図ってきたが、今期は更なる結びつきを強める為に共同で行へる事業を開催した。

神道にとっても、仏教にとっても「先ず掃除」という部分は同じであるといふ事、また皇室敬慕の念を同じくするといふ観点から、皇室関連施設の清掃奉仕を行ふと共に、コロナ禍に於いて、祭典や法要も規模を縮小せざるを得ない状況ではあるが、こんな時だからこそ、神仏にしっかりと心を向ける為に、疫病退散に御縁の深い八坂神社、知恩院に参拝し共に祈りを捧げることが初期の目標に掲げた。



十三日は天候にも恵まれ、八坂神社、知恩院の参拝は予定通りに行ふことができたが、皇室関連施設清掃奉仕を予定してゐた十四日が近畿地区の梅雨入りと重なり、清掃奉仕は残念ながら行へなかった。急遽予定を変更し、賀茂御祖神社に参拝したにも関わらず正式参拝をさせて頂いた。その後皇室に御縁深い御寺「泉涌寺」に参拝し、京都駅近くの会議ルームにて、互いの会の説明をした後、「百年後に神社を残すには」と題し意見を交はした。限られた時間でしたが互ひに忌憚のない意見を出し合ひ有意義な時間となった。

初めての試みだったが、先づは開催できた事でスタートラインに立つことができたので、反省を活かしつつ来年以降に繋げていきたいと思う。
（渉外委員 西田周司）



第四回インスタグラム

神社フォトコンテスト「神社とわたしの思い出」

インスタグラムで神社に関する写真を投稿する「神社フォトコンテスト」は今年、第四回を迎えました。「神社とわたしの思い出」といふテーマに沿った写真の掲載を呼びかけ、令和四年四月より一か月間開催しました。

神社フォトコンテストのアカウントでは、フォローから投稿された写真を定期的に紹介してをります。神道教化の一環として、神社に関係する写真を通じ、神社をより身近に感じてもらうことが狙ひです。投稿される写真は、著名な神社をはじめ、全国のような神社に渡ってをり、新しい発見もみられます。

今回のフォトコンテストは、新型コロナウイルス感染症の予断もまだ許さない中での開催となりました。テーマの検討過程で過去三回のフォトコンテストを振り返ると、神社そのものや神社を含めた風景といった画一的な写真が目立ちました。なじみの深い神社や幼少期の人生儀礼など、人と神社との関わりが映し出される写真を投稿してもらふことを狙ひ、今回は「思い出」をテーマとしました。コロナ禍の中、遠方よりも近隣に足を運ぶことが増え、地元神社を再認識してもらふきっかけにもなりました。不要不急の外出を自粛されてゐる地域の方も参加できるやう、前回と同様に過去に撮った写真を採用することも可能にしました。

投稿数は約八千六百件で、前回の一万五千件余りと比べると少なくなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新たに写真を撮りに行くことを積極的に促さなかったことや、過去の写真に主眼を置いたことで少し門戸が狭まったことが原因と捉へてをります。一方で、人が映った写真が多く投稿され、人と神社の結びつきを再確認するコンテストとなったことは大きな成果です。

本アカウントはフォロー三万二千人を有し、神道教化には大きな一助になると考へてゐます。一方でコンテスト開催期間中には、偽物のなりすましアカウントが複数発見されました。運営側で早急に対応したことで被害はありませんでしたが、今後運用していく上ではより一層の注意が必要であると感じました。

コロナ禍での開催となりましたが、十分な外出が可能でない分、過去の神社との思い出を改めて思ひ出していただき、終息後はさつした神社へ足を運んでいただければ幸いです。

結びに、第四回フォトコンテストの開催にあたり、各神社、各単位会におかれましては周知のご協力をいただき、恙なく終へられましたことに謹んで御礼申し上げますとともに、今後ともご協力を賜りますやう伏してお願ひ申し上げます。

(事業委員 齋藤 剛)

最優秀賞

受賞作品一覧



◎作品者: @yamainu44 撮影場所: 神奈川県足柄下郡 白山神社

◎思い出エピソード「無邪気」

いつでも どこでも突然始まるじゃんけん🎲🎲🎲

この時は誰からお賽銭するか。ちなみに毎回、この日も3人並んでご挨拶しました😊☺️笑湯屋の間にひっそり佇むこちら。

静かさといひ雰囲気が好きで箱根行くときはいつもお邪魔します🍃



◎作品者: @ftomochi 撮影場所: 北海道函館市 函館八幡宮
 ◎思い出エピソード 獅子払いで、一年の無事と健康を祈願。
 ちょいビビってたけど泣きませんでした★
 最近 お面と、人型の人形にビビるようになった娘。
 1番怖いのはC-3PO (スターウォーズの金ピカのひと) 笑
 心が成長しております😊

優秀賞



◎思い出エピソード
 頑張れニッポンJP 頑張れ JAPAN JP 東京 2020 オリンピックJP

優秀賞

◎作品者: @ritan_k 撮影場所: 北海道札幌市 諏訪神社



◎作品者: @longhe_sog03 撮影場所: 大分県杵築市 八幡奈多宮
 ◎思い出エピソード いつぞやの満月の夜😊
 思い付きで行った海は、とても寒くて長居は出来ず😓
 月も遥か高く上がってしまっ、ウルフムーンと鳥居のコラボも撮れず😓
 でも、月明かりに照らされた市杵島も良かったです🍷🍷

優秀賞



◎思い出エピソード 強い思い Strong feelings 江の島 流鏑馬武者行列
 歴史を感じさせる武者行列は、鎌倉殿の13人を思わせるような出立でカッコよかったです。
 日本古式弓馬術協会による武田流の勇壮な流鏑馬。
 海をバックに駆け抜ける姿は、カッコよかった😊
 水を含んでなかなか歩みにくき砂浜を駆け抜けながら、矢を放つ。なかなか難しいこと
 だと思います。その困難な状態の中で、馬上でバランスをとり矢を放つ。まさに馬人
 一体となって駆け抜ける。
 たしかアナウンスで、流行り病撃退の意味もあるって言っていたような気がします😊
 運営の方々、このような見せていただける機会をいただき、ありがとうございました😊

特別賞

◎作品者: @33nuko 撮影場所: 神奈川県藤沢市 江ノ島



◎作品者: @millmill.blog 撮影場所: 愛知県一宮市 花岡神社
 ◎思い出エピソード 〜桜おらんこ〜
 こんにちは！桜って満開も綺麗ですけど、桜吹雪がたまらん好きです！これが
 また写真におさめるのは難しいんですけどね。
 今回はブランコに乗ってみました！最近仕事で小学校に行くことがあったので
 すが、子供が卒業式の練習してる姿を見て何だか懐かしい気持ちになりました😓
 大人にならんとわからんですね
 桜はふんわりがやっぱいいですね🍷
 優しい雰囲気を出すために明瞭度はそろーっと下げましょう！

特別賞



◎思い出エピソード 夏詣 (なつもうで)
 雰囲気のある境内に、温かく迎えてくださる神社の方…。大好きな神社です😊
 ※茅の輪は7月中も数日程 設置してくださるそうです😊🍷🍷

特別賞

◎作品者: @side_colorful 撮影場所: 三重県鈴鹿市 伊奈富神社



◎作品者：@sgoonaru
撮影場所：北海道札幌市 定山溪神社
「(う)する(い)じゃ」という声が聞こえてきそうな
お子様のやらかしを感ずる1枚ですね。



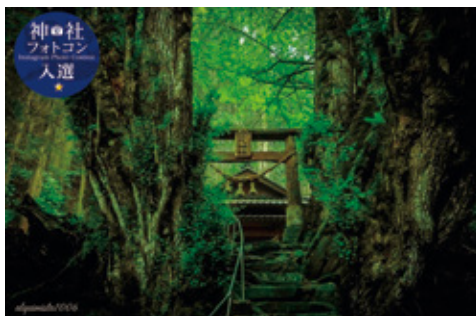
◎作品者：@tsutomu_innami 撮影場所：大阪府松原市 布忍神社
おみくじを見て今にも笑い声が聞こえてきそうな素敵な1枚ですね。



◎作品者：@bambook750
撮影場所：愛知県豊橋市 豊麻神社
奉納手筒花火。迫力満点の現地の雰囲気を感じる1枚です。



◎作品者：@yukaly129 撮影場所：山梨県北杜市 身曾岐神社
子宝杉に祈りをささげて、今までの出会いに感謝している1枚です。



◎作品者：@alquimista1006 撮影場所：熊本県
大木の先には神社の鳥居と社殿が顔をのぞかせ、畏怖を感じる1枚です。



◎作品者：@tabio_meguru
撮影場所：愛知県常滑市 神明社・常石神社
凛々しい立ち姿。お祭りの賑わいと厳肅さが
伝わります。



◎作品者：@kyasunbu
撮影場所：長野県下伊那郡 安布知神社
見た人が思わず笑顔になる、親子の素敵な
思い出のお写真です。



◎作品者：@r_y271417
撮影場所：兵庫県神戸市 生田神社
姉妹を後ろから見守るお母さんが撮影された写真。
いつの間にか成長していく子供への愛情が良く伝わります。

◎作品者：@berineta31
めったに降らない雪を眺めている子どもを捉えた写真。
境内の荘厳な雰囲気相まって素敵なお写真です。



◎作品者：@sangolow 撮影場所：東京都台東区 鳥越神社
子供の頃お祭りを見た思い出は大人になっても忘れないですね。
懐かしい思い出を感じさせてくれる一枚です。

◎作品者：@yym0213
撮影場所：愛知県津島市 津島神社
夏のお祭りでラムネを飲んで、普段の夏祭りを思い出す1枚です。



◎作品者：@natsumikan722
撮影場所：滋賀県長浜市 長浜八幡宮
夜空に浮かぶ月に向かって煌々と輝く山車が、お祭りの幻想的な
雰囲気を一層醸し出しています。



◎作品者：@keserasera55
撮影場所：福岡県太宰府市 太宰府天満宮
伝統をつなぎ毎年行われている鬼すべ神事。
まさに背中が語る1枚です。



◎作品者：@asa_kawa_hiroshi
撮影場所：茨城県那珂市 鹿島神社
山車には数えきれなくらいに提灯がつけられており、迫力満点です。コロナ前、普段行われていたお祭りを思い出させる1枚です。



◎作品者：@silsero_photo
撮影場所：新潟県新潟市 白山神社
桜ろうそくの灯りが心を和ませてくれる素敵な1枚ですね。



◎作品者：@mnksozk
撮影場所：和歌山県
満開の桜とお二人の笑顔。見ているこちらまでほっこりする1枚ですね。



◎作品者：@photogg_kouro
撮影場所：北海道横丹郡 美国神社
燃え盛る火の中を渡る天狗。勇壮で迫力満点の1枚です。



◎作品者：@mana_27riviera
撮影場所：奈良県桜井市 大神神社
山霧に包まれた三輪山。雲から射す光がとても幻想的です。



◎作品者：@rovet2020
撮影場所：広島県廿日市 厳島神社
夕焼けが鳥居を二層引き立たせているとても綺麗な1枚ですね。



◎作品者：@yamatoahananohanashi
撮影場所：大分県中津市 薦神社
この景色になるのを想像しながら2時間も待って撮影されたこちらのお写真。水面に写る鳥居と夕日がとても美しい1枚です。



◎作品者：@eiko_625
撮影場所：佐賀県鹿島市 祐徳稲荷神社
桜の花びらの先には荘厳な社殿が見えており、春を感じさせる1枚です。



◎作品者：@chiemi_019
撮影場所：宮城県刈田郡 刈田嶺神社
毎年冬になると、雪の衣に覆われ立派になる鳥居。冬の訪れを思い出す1枚ですね。



◎作品者：@aya_yuzuki
撮影場所：宮城県塩釜市 志波彦神社鹽竈神社
三代にわたって引き継がれた着物。歴史も感じるかわいい1枚ですね。

令和四年度 神道青年全国協議会夏期セミナー 開催要綱

一、主題 意識改革／多様化する社会に適應するために

一、趣旨 世界では持続可能な社会の実現に向けた動きがますます強まってゐるが、考へ方や置かれてゐる状況と立場によつて、認識や取り組みへの温度差が顕著である。神社界に於いても、そのやうな世の中の考へ方を的確に捉へ、時代に對應していくことが求められてゐる。斯界は兎角保守的と捉へられるが、新しい考へ方を進んで学び、知識を蓄へていくことが重要であらう。

女子神職の感性を活かした活躍が期待される昨今、神社護持運営に於ける様々な取り組みや制度等、実情把握と改善点の鮮明化が喫緊の課題である。個々の意識改革や、男女間はず誰かが活躍できる場を創出するためには、組織自体がいかにして多様化する社会に適應できる仕組みを構築していくかを学ぶ必要がある。社会全体を通しての多様化を受け入れるため、一人ひとりが意識を変化させていくことが、我々にいま求められてゐるのではないだろうか。

また、年々利用者が増加傾向にあるキャッシュレス決済や電子マネーに於いても、利便性や利益性のために促される形で利用されてゐる傾向がある。知識が身に付いてゐないばかりに思はぬトラブルに巻き込まれてしまふ危険性もあり、それぞれの仕組みや対象となる法制度を明確にする必要がある。教学的な信仰面から考察すると共に、法人面での注意すべき点についても理解を深めなければならない。

今や神社には伝統を守るだけでなく、時代や社会構造の変化に應じた新たな変革が求められてゐる。斯界に於る実情や具体的取り組み、課題について知ること、社会貢献価値を高め、未来に向けて持続させる糸口を探るため本セミナーを開催する。

- 一、主催 神道青年全国協議会
- 一、主管 神道青年全国協議会 教化委員会
- 一、期日 令和四年八月三十日（火・大安）

～八月三十一日（水・赤口）

- 一、会場 神社本庁二階大講堂 東京都渋谷区代々木一―一二
- 一、内容

第一日目

【第一講】

パネルディスカッション「女性らしさと現代の神社」
モデレータ 高野 裕基 先生（皇学館大学文学部神道学科助教）

パネリスト 高山 博子 先生（太宰府天満宮 権禰宣）
パネリスト 石原 和香子 先生（荘内神社 権禰宣）

【第二講】

演題「ミッション・私たちの存在理由」
講師 岩田 松雄 先生（元スターバックスコーヒージャパンCEO）

第二日目

【第二講】

演題「デジタル化に伴ふ神社での対応を考へる」
講師 浅山 雅司 先生（神社本庁総合研究所総合研究部長）

一、申込み

・同封の参加申込書に御入力の上、エクセルデータのまま、単位会毎に神道青年全国協議会総務局までメールにて御申込み下さい。

神道青年全国協議会総務局 shisei@nihonchoto.jp

神社本庁総合研究所入所申込書（参加者一名につき一枚）は郵送での申込みが必要となります。

修了証にて記入する為、生年月日は正確に御記入下さい。

初めて神社本庁総合研究所に入所される方は、申込書の他に所定の用紙の履歴書が必要です。

・締切に遅れた場合、神社本庁総合研究所に提出する名簿に記載致しかねますので、予め御了承下さい。

一、参加費 一名 六千円

・参加費は各単位会にて取り纏めの上、申込締切日までに一括して左記口座に御振込み下さい。

（同封の郵便振替用紙を御使用下さい）
郵便振替 〇〇―一〇九―二八三三 神道青年全国協議会

一、締切 令和四年七月二十九日（金・先勝）（厳守）

二、その他

一、参加に当たって

・会場までの往復の旅費を各自御負担下さい。また、宿泊につきましても各自御手配下さい。

・男性は背広にネクタイ着用、女性はそれに準ずる服装と致します。

・本セミナーは、青年神職として相互の啓発を期待するものです。参加に際しては充分に自身の考へを取り纏めの上、各位参加して下さい。

・口、レポート提出及び修了証の交付について
・修了に当たって、レポートの提出があります。

※レポートテーマ 主題に同じ 字数四〇〇字詰原稿用紙（神社本庁研修所指定用紙）二枚程度

・本セミナー修了者には、神社本庁総合研究所より修了証（一日間）が交付されます。但し、集合受付時間の遅刻、早退・欠席の場合には、理由の如何を問はず修了証は交付されませんので、御承知お下さい。

・修了証が不要の方は、申込書に「修了証不要」とお記し下さい。

八、その他

・参加取止めは、八月十五日までに届け出のあった場合には参加費全額を、八月二十二日までの場合は半額を返金致します。それ以降の届け出については、諸準備の都合により返金致しかねます。

・参加者はマスクの着用・手指消毒の徹底をお願いします。当日、三十七度五分以上の発熱がある場合は参加できません。感染状況の推移等によつては、実施形態の変更や中止の可能性がございますので御了承下さい。尚、その際の交通費等は申し訳ございませんが御負担下さい。

一、申込書送付先及び御問ひ合はせ先
神道青年全国協議会総務局
〒一五―一〇〇五三

東京都渋谷区代々木一丁目一―二 神社本庁内
電話 〇三―三三三九八〇―一
FAX 〇三―三三七九八二九九

メール shisei@nihonchoto.jp

※神社本庁総合研究所入所申込書、履歴書は必ず御郵送下さい。神社本庁総合研究所入所申込書は署名・捺印のある原本が必要となります。原本のコピーや画像データを印刷したものは受理できませんので御注意下さい。

令和四年度 神青協夏期セミナー 日程表

第2日目		第1日目	
8月31日（水曜日）	集合	8月30日（火曜日）	
	9:30		
第三講	10:00		
「デジタル化に伴う神社での対応を考へる」			
	浅山 雅司 先生		
	11:15		
	質疑応答		
	11:40		
	レポート作成		
	12:40		
	開講式		
	13:10		
	解散		

	12:30		
	13:00		
	13:30		
第一講			
「パネルディスカッション 女性らしさと現代の神社」			
モデレータ 高野 裕基 先生			
パネリスト 高山 博子 先生			
パネリスト 石原 和香子 先生			
質疑応答			
	15:00		
	15:10		
	15:20		
第二講			
「ミッション・私たちの存在理由」			
岩田 松雄 先生			
	16:50		
質疑応答			
	17:00		
	解散		

創業 明治以前

各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前 (〒516-0025)
TEL (0596) 22-2442 (代表)
FAX (0596) 28-8445
info@ise-minato.co.jp
http://www.ise-minato.co.jp

神社・仏閣向けの御守などの
授与品や縁起物を製造・販売

新日本工芸(株)

〒311-4153 茨城県水戸市河和田町3891
TEL : 029(251)0997代 FAX : 029(252)8287
E-MAIL : info@shinnihonkoge.co.jp
URL : http://www.shinnihonkoge.co.jp/

HASEGAWA
creation with warmth

授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義實

〒340-0025 埼玉県草加市谷塚神町466-1
TEL: 048-921-1221 / FAX: 048-921-1515

創業 安政貳年

授与品・神具

株式会社 秋江

御守袋・錦守・木札・紙札・絵馬
根付・神具・御装束・土鈴・記念品

〒602-0056
京都市上京区堀川通り上立売下北舟橋町835
TEL 075(432)2255 FAX 075(441)8011
URL http://www.akie-net.com

鳥居 ニッケル系高耐候性鋼

安全性抜群

(全国に建立実績有り)

(有) 宮田鉄工所

本社 社 932 0121 富山県小矢部市矢部町六六五
電話 〇七六六 一五四 一六二五〇
FAX 〇七六六 一五四 一六二四九
製造工場 〒929 0426 石川県河北郡津幡町竹橋ヌ八五
電話 〇七六一 八八〇 三三六
FAX 〇七六一 八八〇 三三七

神祭具 授与品 記念品奉製

株式会社 神路社

本社 社 〇五九 二四八 五八八
〒五六一 八六二 (私書函第二六号)
三重県伊勢市岩洲二丁目五番二九号
電話番号 〇五九 二四八 五八八
神苑(東日本営業所)
〒一五〇〇三
東京都渋谷区恵比寿一丁目二六番十四号
電話番号 〇三 三三 〇一六七二
ACTビル四階
URL http://www.kamijisya.co.jp

神社本庁 御用達
各神社

〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鈴
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・鋳造類

鈴木徽章工芸(株)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL. 03-3814-1811 FAX. 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

株式会社 民俗工芸

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町18-1
TEL 0956-34-5500 / FAX 0956-34-5511
URL ▶ http://www.minzoku.co.jp

《信用第一主義》

(株) 福岡奉製

神社御社頭授与品、御神矢、御守
御守袋、絵馬、木札、御神符
金属・樹脂御守

〒八三四 一〇八 一
福岡県八女市立花町山崎一九六一
電話 〇九四三 一三三 一三四一二
FAX 〇九四三 一四四 八八三

子どもと一緒に
手づくり神棚キット

クボデラ 株式会社

〒165-0027 東京都中野区野方4-44-10-3F
TEL 03-3386-1153 FAX 03-3386-1165
mail: info@kubodera.jp

強い仕事、誠実奉仕

本社 本 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店

瀬戸装束店

(営業品目)

- 神職御装束 ●神樂装束 ●神社調度
- 祭器具のすべて ●神前結婚式場神職設備

〒164-0001 東京都中野区中野3丁目10番5号
電話 03-3381-4927 FAX 03-3381-4927

取引銀行 三菱UFJ銀行 中野駅前支店 郵便振替口座 00120-7-557201
普通預金 金 0359145

全国各神社御用達

神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬・その他各種御札
御守・奉書紙・書道半紙・耐水奉書
他各種和紙謹製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

〒409-3601 代表取締役 今村和弘
山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11
電話 055(272)0514
FAX 055(272)8818

おももり・調度品
(各種キャラクター御守製造)

 **株式会社 ユーカワベ**

京都店
〒607-8306
京都市山科区西野山中島井町74-1
TEL 075-501-1411 FAX 075-501-4480
E-mail yukawabe@oak.ocn.ne.jp

東京店
〒113-0021
東京都文京区本駒込1-13-5
TEL 03-3944-9311 FAX 03-3944-9312

創業百有余年
磨き、繋ぐ、百年の技
一体一休手づくりでお届けします

御朱印帳 木札・紙札・おみくじ
交通安全守・金襴御守
彫木守・絵馬・守護矢
その他各種授与品



株式会社 **井丸井紙店**
〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763
TEL 055-272-0136 FAX 055-272-3966

日本の文化財を
確かに継ぐ

漆塗・彩色・鍍金具・各種工事

 **株式会社 小西美術工芸社**

東京本社
東京都港区芝4-4-5 三田ビル3F
電話 03-5766-1481 / FAX 03-3455-9250

日光支社
栃木県日光市所野2829-1
電話 0288-54-1198 / FAX 0288-54-1196

京都・吉祥院

全国社寺授与品・調度品総合奉産

 **東和奉産株式会社**

本社
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町7
Tel (075) 691-3000 Fax (075) 691-3300
Email info@towahosan.jp
HP <http://www.towahosan.jp/>

北関東営業所
〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町2508-16
Tel (029) 297-8077 Fax (029) 297-8076

揺れて
輝くお守り

オリジナルで作成できます。



株式会社クロスフォー
(東証スタンダード7810)
TEL:057-008-9640 (ナビダイヤル)
URL:<https://crossfor.co.jp/>



右側の二次元コードから紹介動画をご覧いただけます。

十二支おみくじ

置物になる縁起物に開運おみくじをプラス。

株式会社 おみくじ工房

〒516-0804 三重県伊勢市御園町長屋693
TEL 0596-22-8686 FAX 0596-22-4705
E-mail info@omikujis.net



検索ワード おみくじ工房

コミュニケーションを
発信し続けていきます。

 **Next!**
Real innovation

NAP ニホン美術印刷株式会社
名古屋支店

名古屋市中区東横1丁目9-4 (江口THビル) TEL (052) 962-0686
URL <http://www.nihonbijutsu.co.jp>

本社:大垣市西外側町2-15 TEL (0584) 78-2171 (代)
■東京営業所 ■大阪営業所

ゆとりとやすらぎの宿

 **神宮会館**
伊勢神宮崇敬会

—ご宿泊に関するお問い合わせ—
〒516-0025
伊勢市宇治中二之切町152
TEL 0596-22-0001/FAX 0596-22-1517



Instagram 好評配信中

神棚・モダン神棚

神棚の里

有限会社 静岡木工
静岡県榛原郡吉田町住吉 3217-1



編集後記

会員が集ふ事業が多い当会において、コロナウイルスの影響はあまりに大きく、活動の見直しが余儀なくされました。コロナ禍でどのやうな活動ができるか議論を重ね、ウェブ研修や人数制限を以ての事業など感染対策を行ひながら進めて参りました。

各県会員の皆様もコロナ禍の中、試行錯誤しながらの活動を展開されてゐるかと思ひますが、会員同士の知恵を結集し、困難な状況下でも立ち止まる事なく歩みを進めて参りませう。

(広報委員 吉武誠礼)

『神青協通信』第145号

発行 神道青年全国協議会

発行 令和4年7月31日

発行所 東京都渋谷区代々木1-1-2

編集 広報委員会

制作印刷 ニホン美術印刷株式会社



神青協 HP
(会員用 ID : shinsei PASS : hinomaru)

 神青協 Instagram

 神青協 Facebook

神社を知ろう

**神社
検定**

神社検定の“虎の巻”

『神社のいろは』が待望のマンガ化！



マンガ版 神社のいろは

神社検定に挑戦する童女
ミカンコ（御神子）ちゃん

氏子崇敬者には「見て楽しい！」
神職には便利な備忘録！

神社検定副読本



企画：公益財団法人日本文化興隆財団
発行：株式会社扶桑社

令和3年12月15日発売

A5判 200ページ

定価 2,200円税込

送料無料

電子版
あり

目次

- 第1章 身近な神社のあれこれを知りたい
- 第2章 参拝などの正式作法を知りたい
- 第3章 全国的な神社の由来を知りたい
- 第4章 お祭りについて知りたい
- 第5章 神棚と家のお祭りについて知りたい
- 第6章 お伊勢さんについて知りたい
- 第7章 皇室のお祭りについて知りたい
- 第8章 神社にまつわる制度と歴史について知りたい

ご注文は、インターネット・電話・ファックスで承ります。

『神社のいろは』も好評発売中！

神社検定公式テキスト①

神社のいろは

A5判/184ページ/

定価 1,781円税込・送料無料

参拝作法から、神様、お祭り、歴史まで
Q&A方式で平易に解説。
神道、神社入門書の決定版。

電子版
あり

■インターネットの場合

日本文化興隆財団ホームページ

<https://www.nihonbunka.or.jp>

クレジットカード・コンビニ決済が選択できます。

■電話・ファックスの場合

公益財団法人日本文化興隆財団

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10

☎ 03-5775-1145 FAX 03-3475-5805

受付時間/11時～19時（土日祝日を除く）